

(3) 仕事について

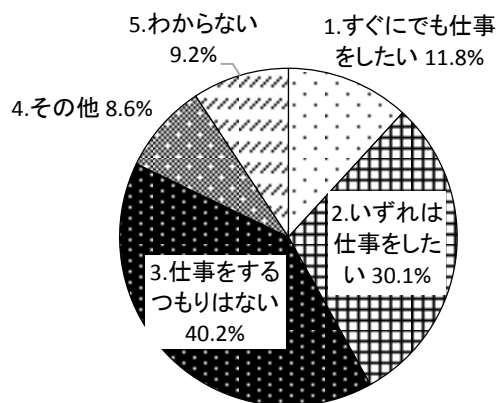
【問 15 は、現在、仕事をしていない方（育児や介護、療養などで休業中の方は除く）におたずねします】

※現在、仕事をしている方および育児や介護、療養などで休業中の方は、問 16 へお進みください。

※なお、このアンケートでは、学生のアルバイトは仕事に含みません。

問 15 今後、あなたは、仕事をしたいと思いますか。（あてはまるもの 1 つに○）

「3. 仕事をするつもりはない」が最も多く 40.2%、次いで「2. いずれは仕事をしたい」が 30.1%であった。



(N=465)

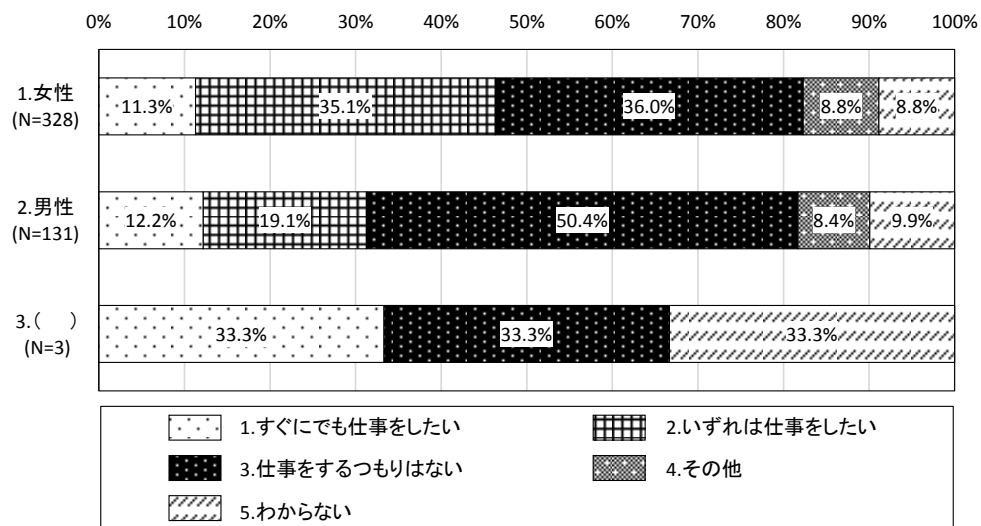
「4. その他」の回答

- ・ 仕事をしたいが、たぶんどきないと思う。
- ・ 経済的に必要になれば働く。
- ・ 出来れば社会貢献等をしたい。 等

3 調査結果
仕事について

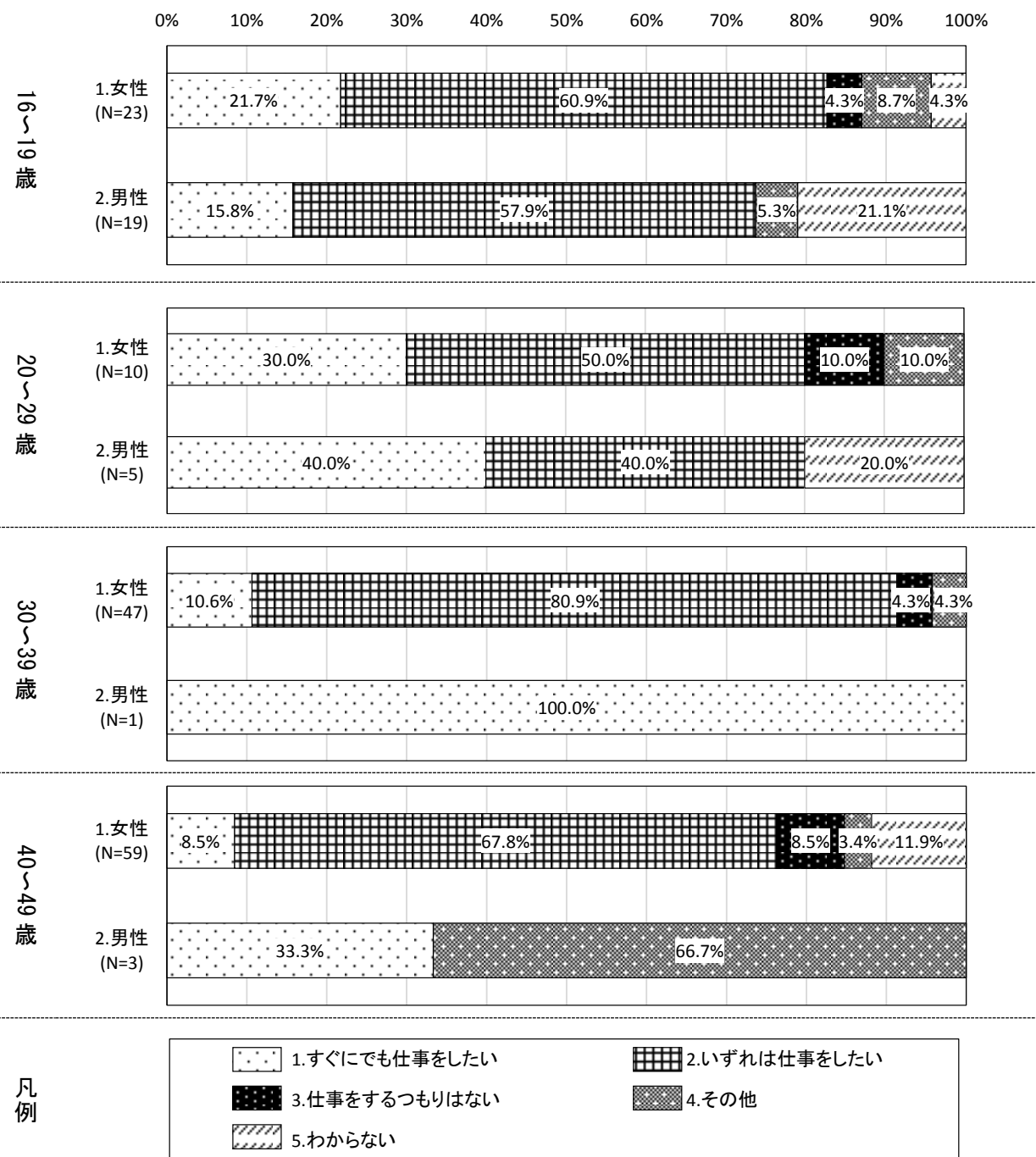
性別

男女ともに「3. 仕事をするつもりはない」が最も多く、次いで「2. いずれは仕事をしたい」であった。なお、「3. 仕事をするつもりはない」は、女性より男性の割合が多くなっている。



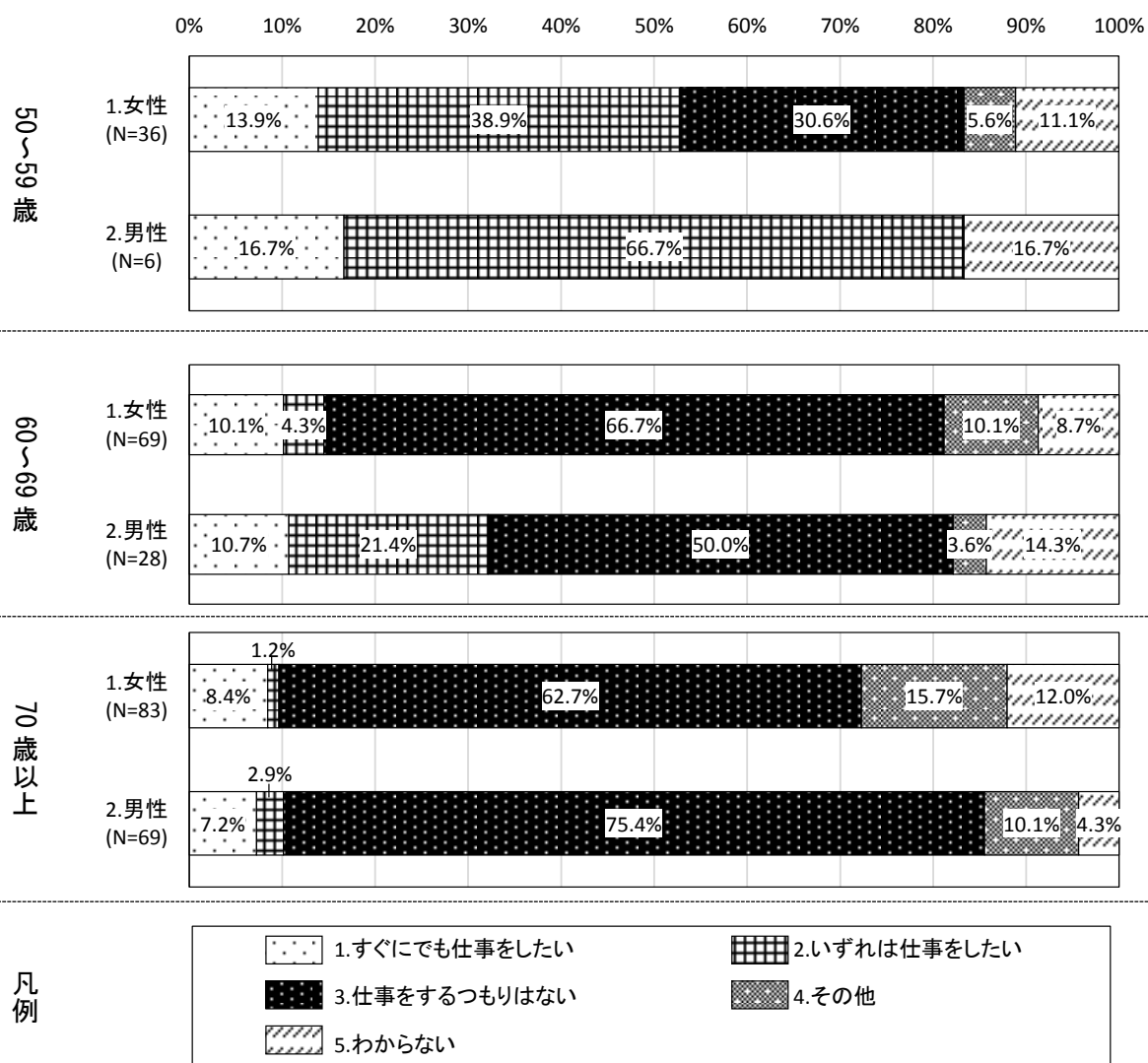
年齢別かつ性別

60歳以上は「3. 仕事をするつもりはない」が最も多くなっている。一方で、60歳未満は、30～39歳、40～49歳の男性を除いて、「2. いずれは仕事をしたい」が最も多くなっている。



3 調査結果

仕事について

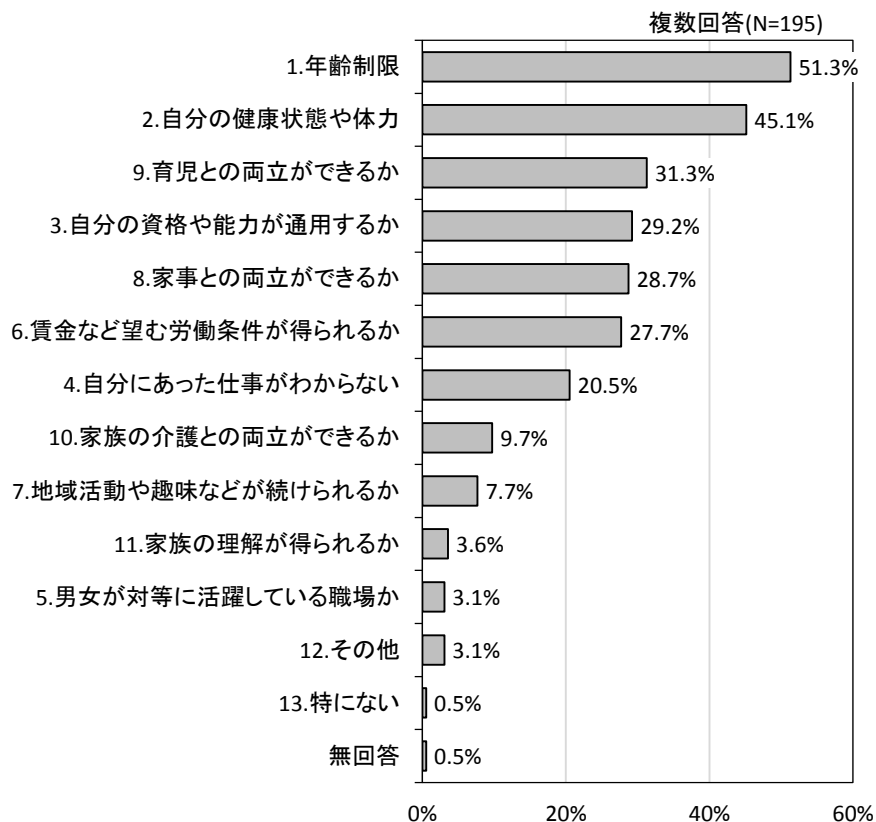


【問 15 で「1. すぐにでも仕事をしたい」または「2. いずれは仕事をしたい」を選択した方におたずねします】

問 15-1 これから仕事をするうえで気がかりなことは何ですか。

(特に気がかりなもの3つまでに○)

「1. 年齢制限」が最も多く 51.3%、次いで「2. 自分の健康状態や体力」が 45.1%、「9. 育児との両立ができるか」が 31.3%であった。

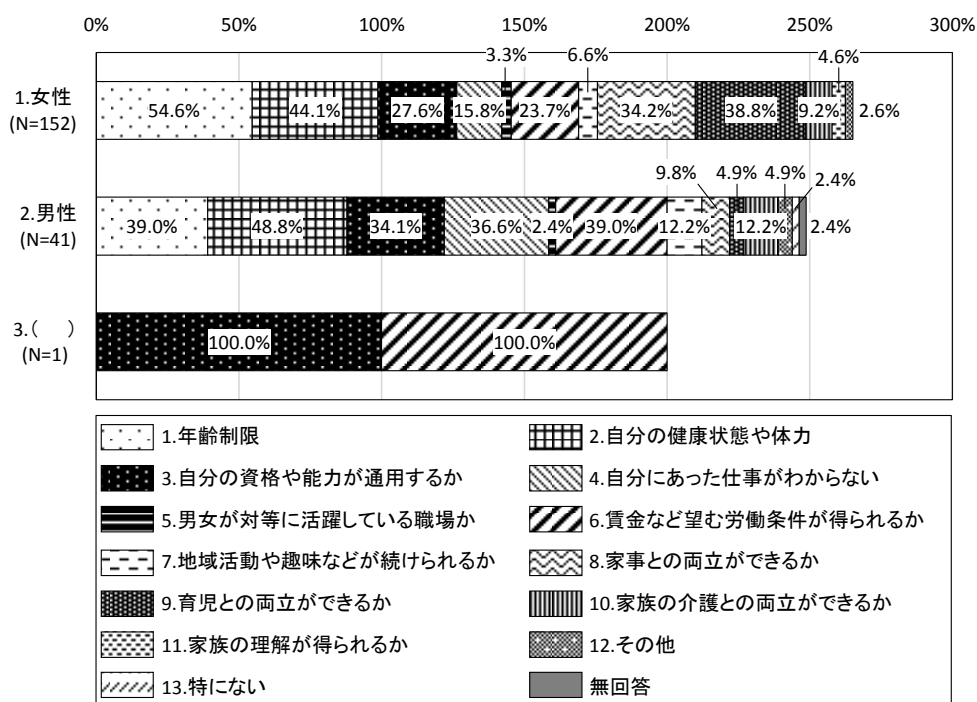


「12. その他」の回答

- ・学校の行事と両立できるか（役員になった時など）。
- ・職場の人間関係。 等

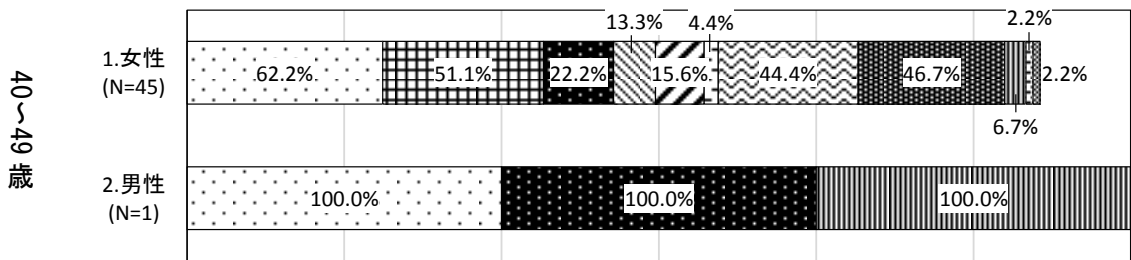
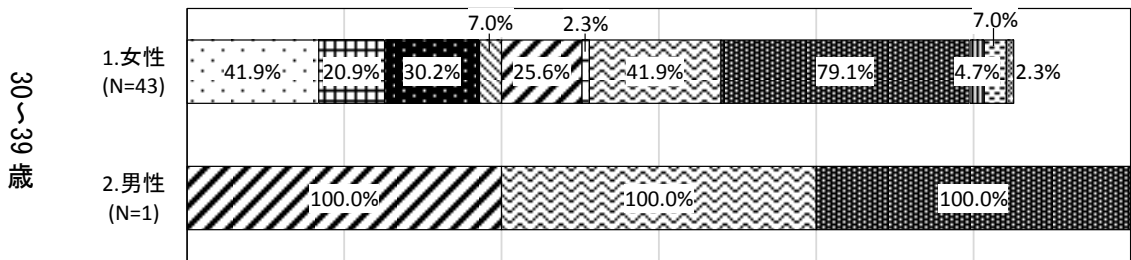
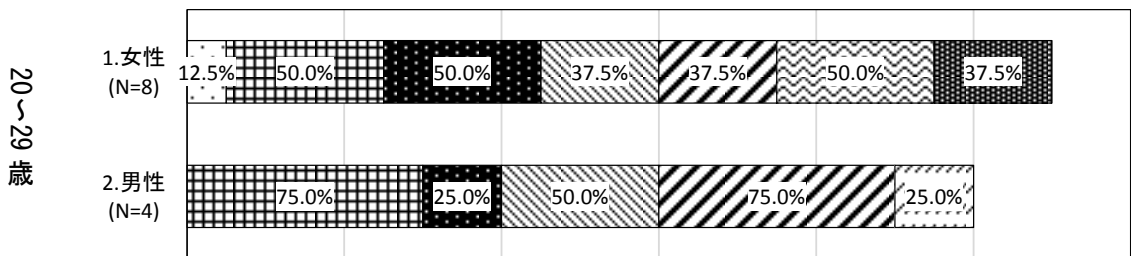
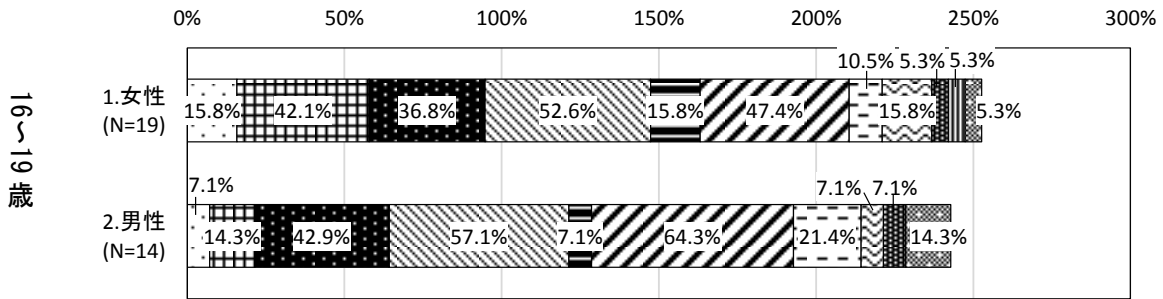
性別

女性は「1. 年齢制限」が最も多く、男性は「2. 自分の健康状態や体力」が最も多くなっている

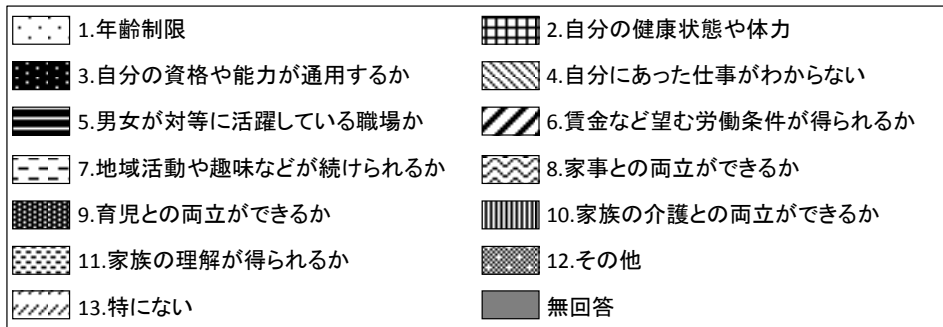


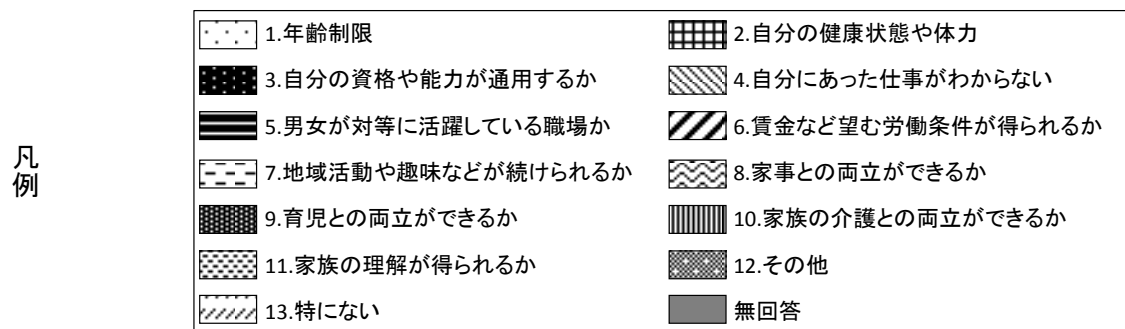
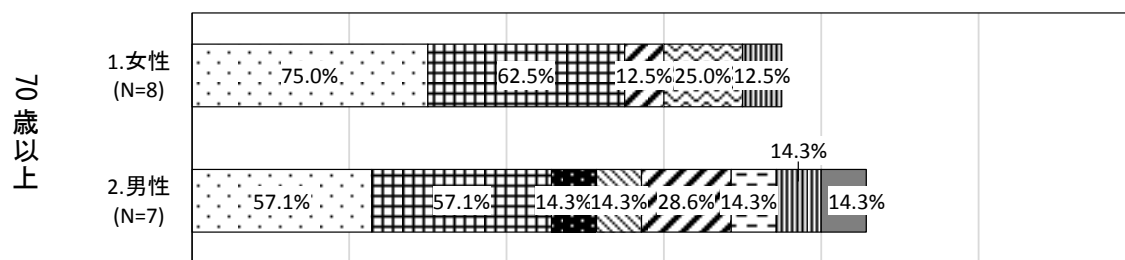
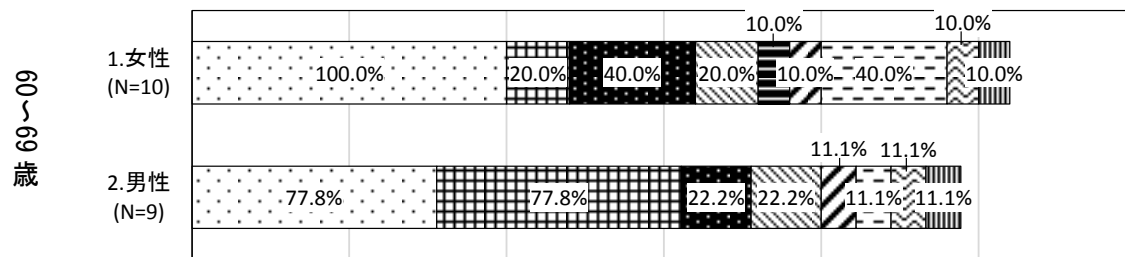
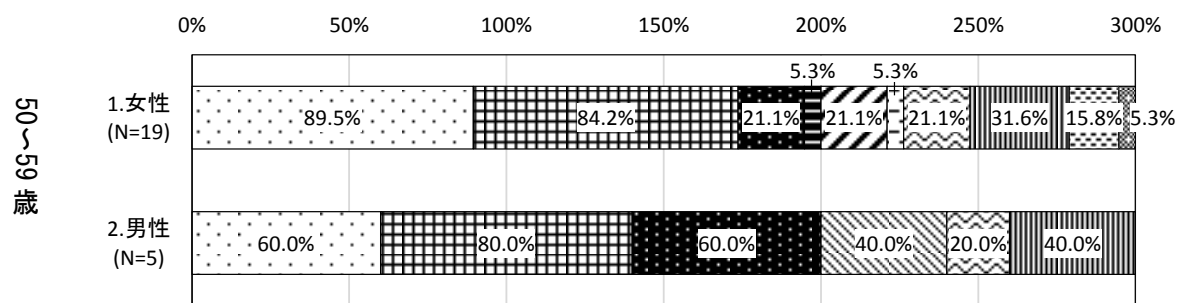
年齢別かつ性別

40歳以上は「1. 年齢制限」や「2. 自分の健康状態や体力」が比較的多くなっている。
 また、30～39歳の女性は「9. 育児との両立ができるか」が最も多くなっている。



凡例

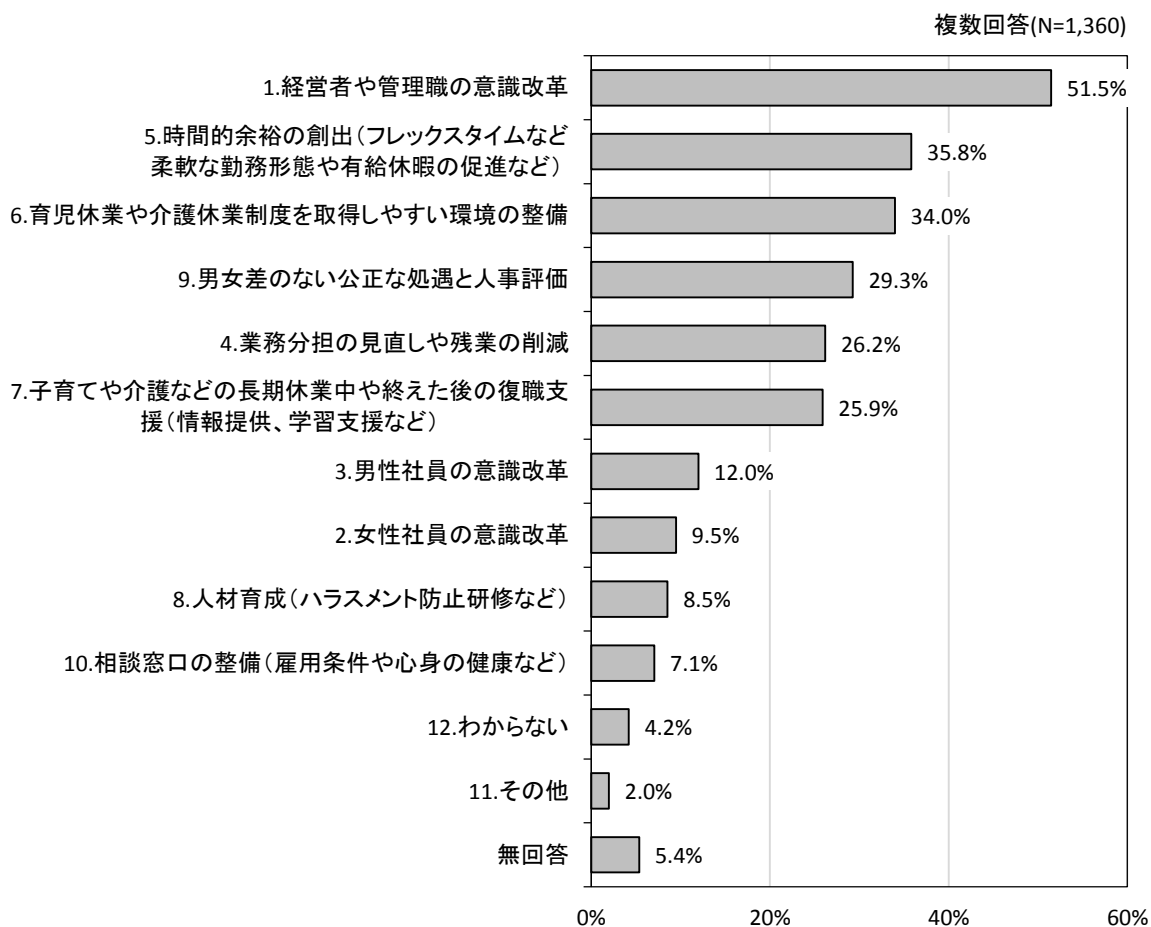




【働いた経験がある方におたずねします】

問 16 あなたは、あなたやあなたの周囲（同僚など）が、性別に関係なく、仕事と生活のバランスを保ちながら、いきいきと仕事を続けるために企業が取り組むべきことは何であると考えますか。（優先的に取り組むべきもの3つまでに○）

「1. 経営者や管理職の意識改革」が最も多く 51.5%、次いで「5. 時間的余裕の創出（フレックスタイムなど柔軟な勤務形態や有給休暇の促進など）」が 35.8%、「6. 育児休業や介護休業制度を取得しやすい環境の整備」が 34.0%であった。



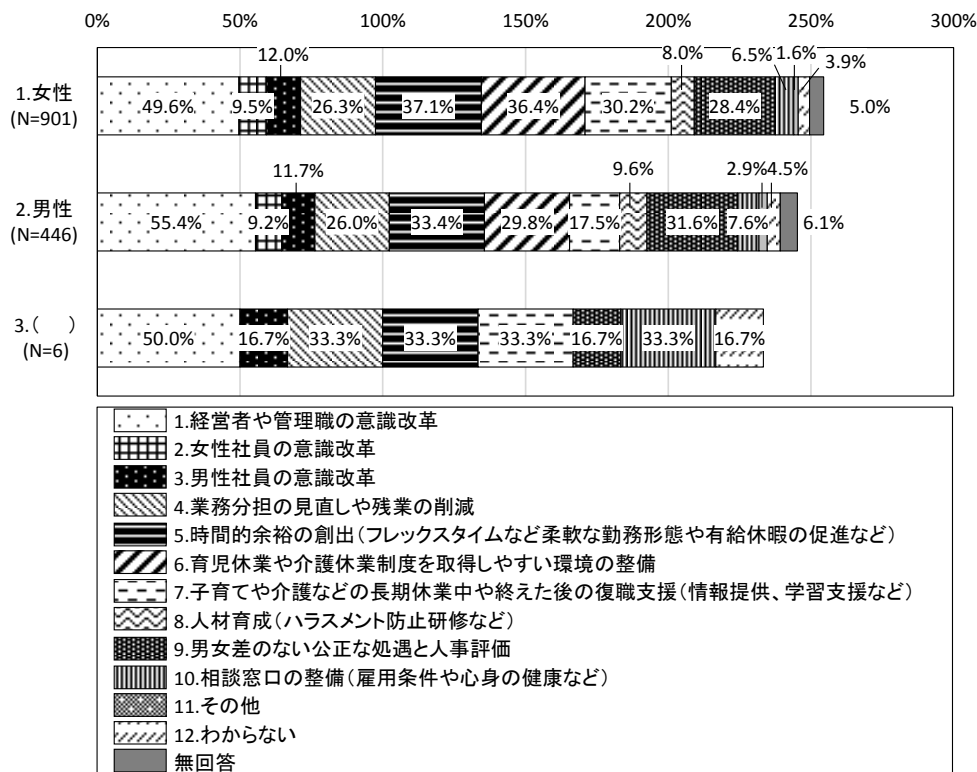
「11. その他」の回答

- ・一人にかかる労働量を減らす。余裕をもった人数配置。
- ・企業内の託児所の充実。
- ・ドイツの様に17時定時退社を官が徹底的に行う。 等

性別

男女ともに「1. 経営者や管理職の意識改革」が最も多くなっている。

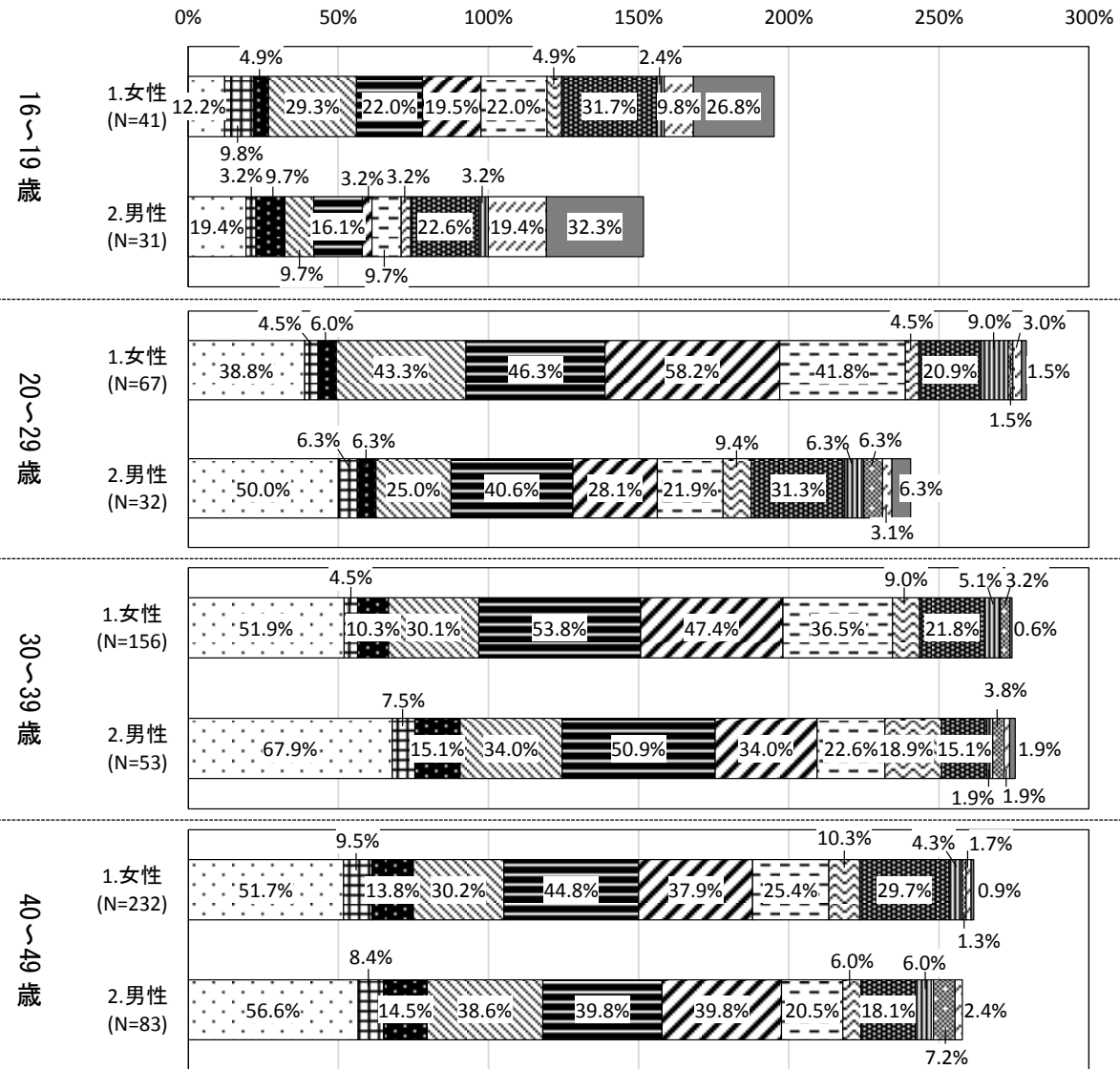
なお、「1. 経営者や管理職の意識改革」は、女性より男性の割合が多くなっている。



年齢別かつ性別

20～39歳の男性と40歳以上は「1. 経営者や管理職の意識改革」が最も多くなっている。20～29歳の女性は「6. 育児休業や介護休業制度を取得しやすい環境の整備」が最も多く、30～39歳の女性「5. 時間的余裕の創出（フレックスタイムなど柔軟な勤務形態や有給休暇の促進など）」が最も多くなっている。

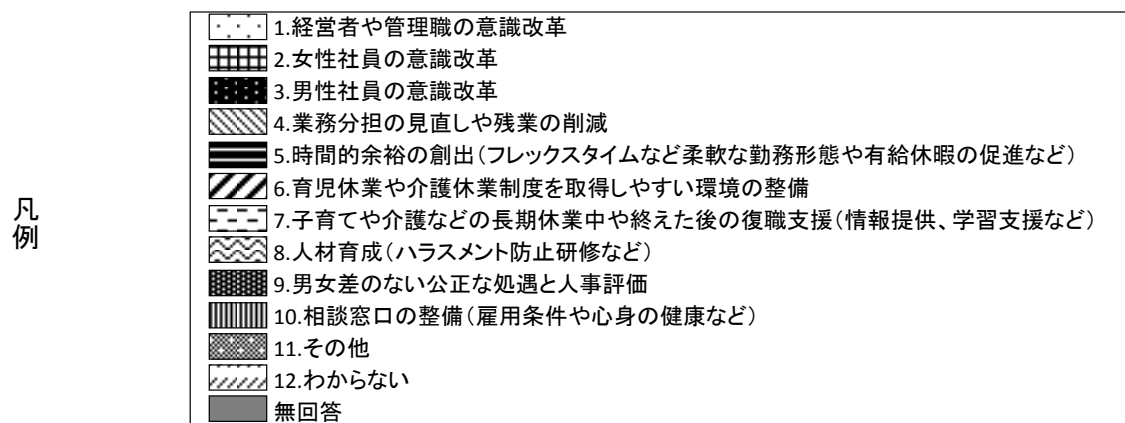
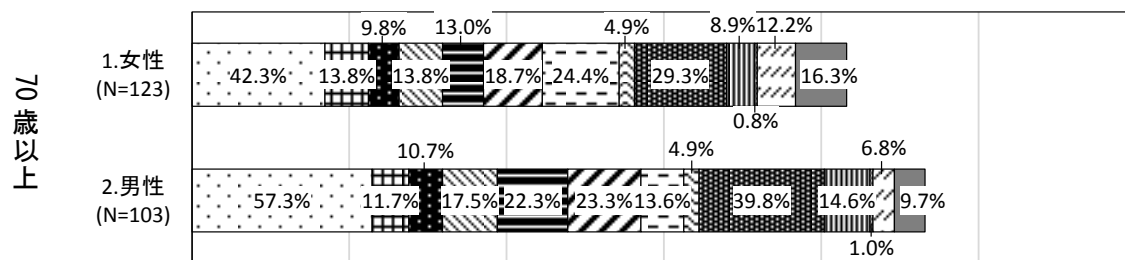
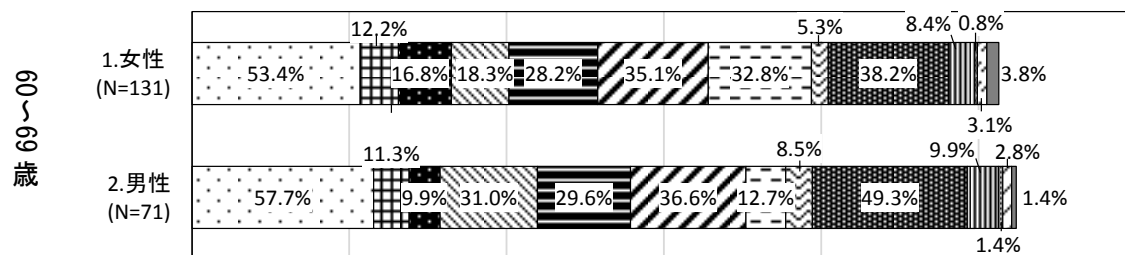
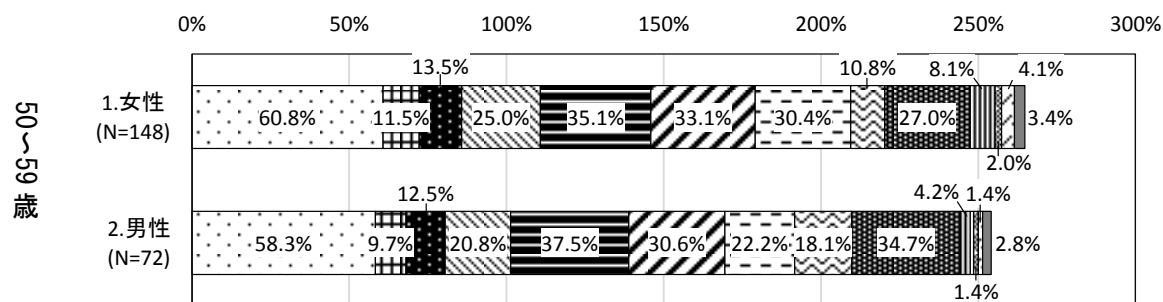
また、16～19歳については、無回答が比較的が多くなっているが、回答があった中では、男女ともに「9. 男女差のない公正な処遇と人事評価」が最も多くなっている。



凡例

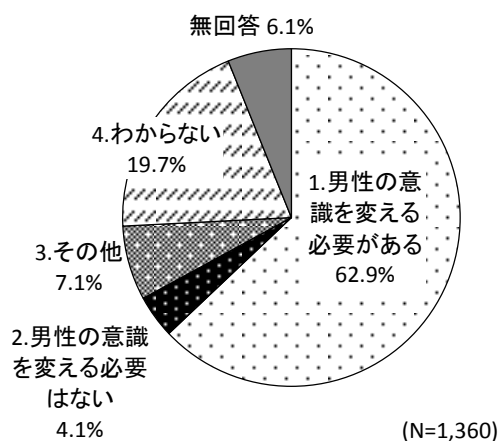
- 1. 経営者や管理職の意識改革
- 2. 女性社員の意識改革
- 3. 男性社員の意識改革
- 4. 業務分担の見直しや残業の削減
- 5. 時間的余裕の創出（フレックスタイムなど柔軟な勤務形態や有給休暇の促進など）
- 6. 育児休業や介護休業制度を取得しやすい環境の整備
- 7. 子育てや介護などの長期休業中や終了後の復職支援（情報提供、学習支援など）
- 8. 人材育成（ハラスメント防止研修など）
- 9. 男女差のない公正な処遇と人事評価
- 10. 相談窓口の整備（雇用条件や心身の健康など）
- 11. その他
- 12. わからない
- 無回答

3 調査結果
仕事について



問 17 男性の働き方の意識（長時間労働の削減など）が変わると、家事・育児などへの参画が進み、女性の働き方が変わる可能性があるという考え方がありますが、あなたはどのように考えますか。（あてはまるもの1つに○）

「1. 男性の意識を変える必要がある」が最も多く62.9%、次いで「4. わからない」が19.7%であった。

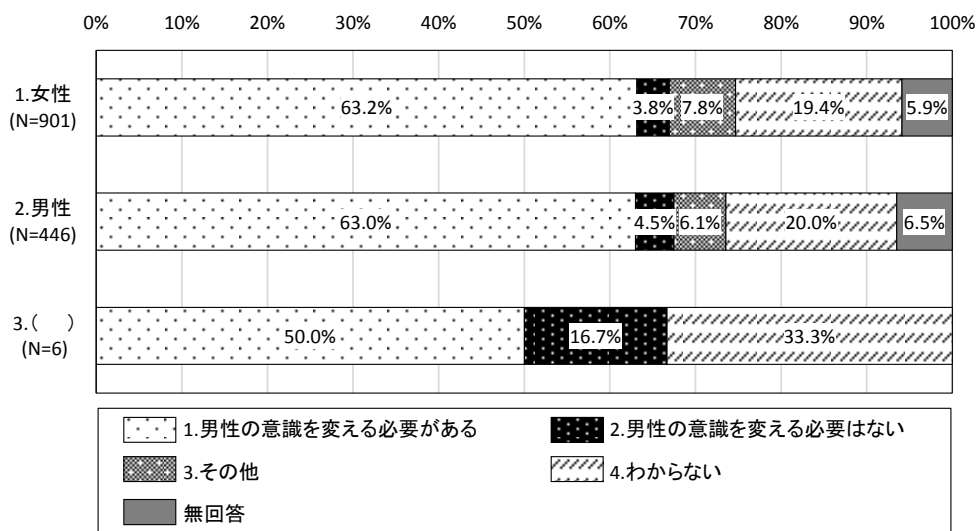


「3. その他」の回答

- ・意識ではない。（仕組み、ルール強化）が必要。
- ・若い男性の意識はすでにかわりつつあると思われる。今後は進んでいくと思う。
- ・男女ともに意識を変える必要があると思う。 等

性別

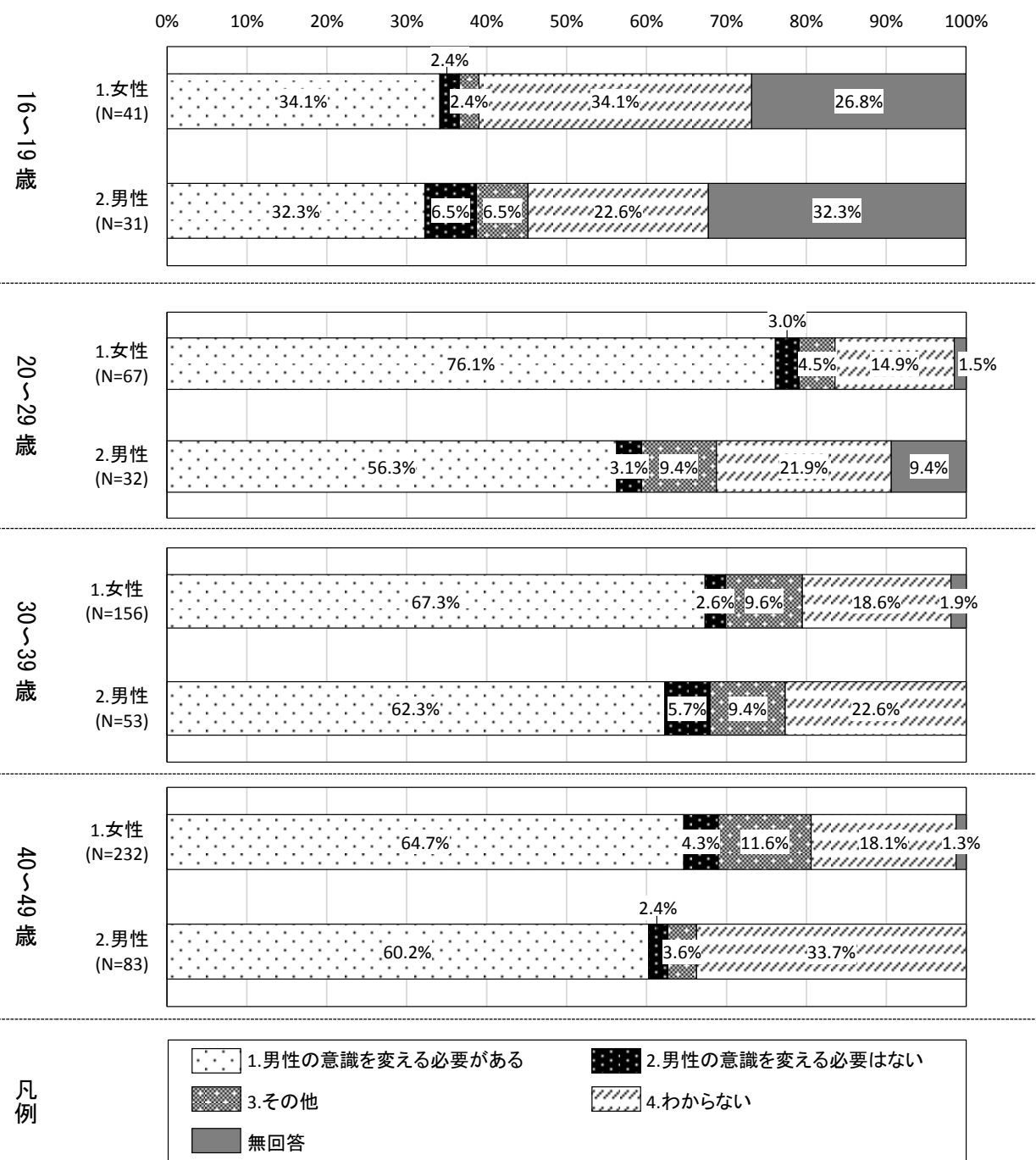
男女ともに「1. 男性の意識を変える必要がある」が最も多く、次いで「4. わからない」であった。



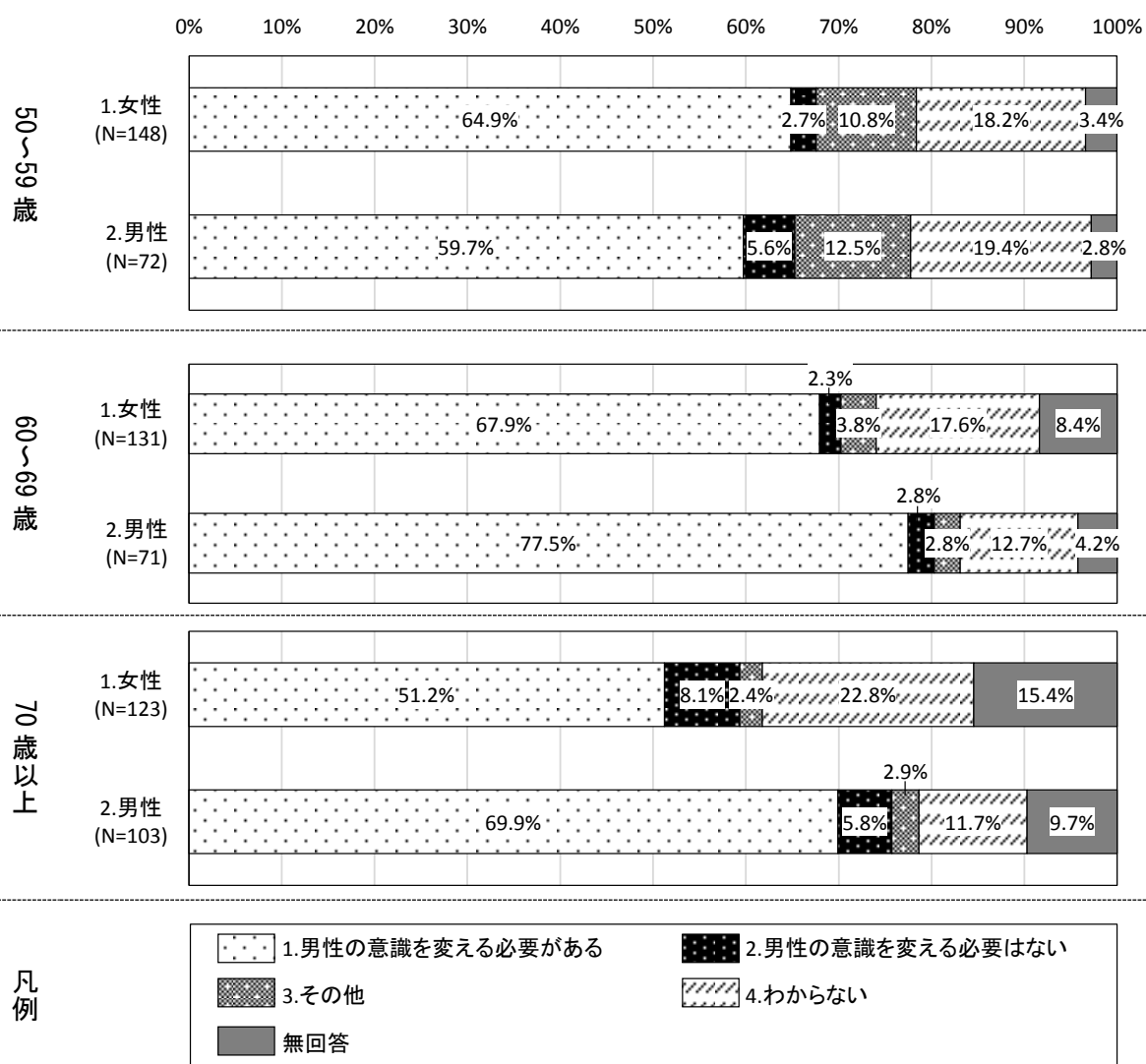
年齢別かつ性別

16～19歳を除いて、いずれの年齢層も「1. 男性の意識を変える必要がある」が最も多くなっている。

また、「1. 男性の意識を変える必要がある」で、女性と男性で意識が大きく異なる年齢層は20～29歳であり、男性より女性の割合が多くなっている。



3 調査結果
仕事について

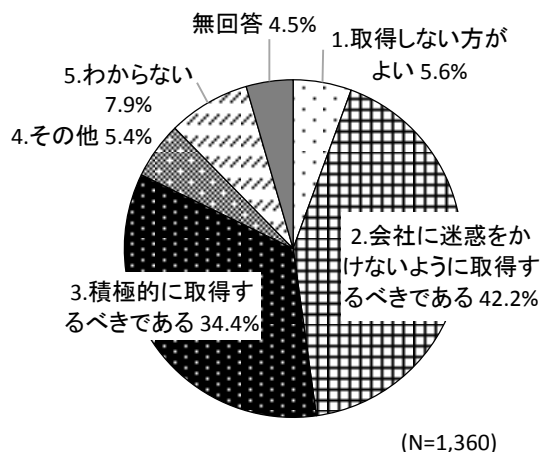


問 18 あなたは、男性が育児休業や介護休業を取得することについてどのように考えますか。

※ここでの「育児休業」には、出産の立ちあいなどの短期の有給休暇は含みません。

問 18-1. 育児休業 (あてはまるもの1つに○)

「2. 会社に迷惑をかけないように取得すべきである」が最も多く 42.2%、次いで「3. 積極的に取得すべきである」が 34.4%であった。

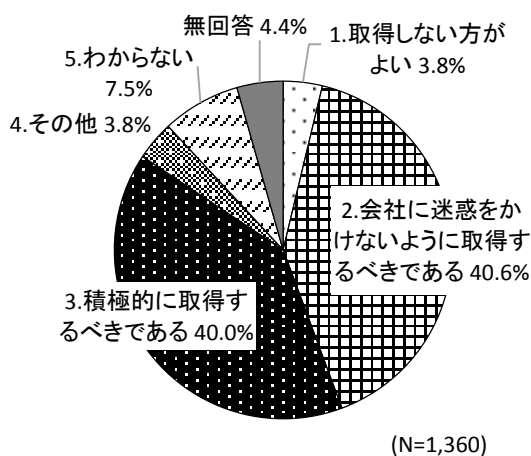


「4. その他」の回答

- ・家族で話合って決めればよい。但し取得し易い環境は必要。
- ・休業ではなく育児時間で早退・遅刻がとりやすくなってほしい。
- ・取得できるのであれば取得した方がいいと思うが、するべきであるとは思わない。 等

問 18-2. 介護休業 (あてはまるもの1つに○)

「2. 会社に迷惑をかけないように取得すべきである」が最も多く 40.6%、次いで「3. 積極的に取得すべきである」が 40.0%であった。



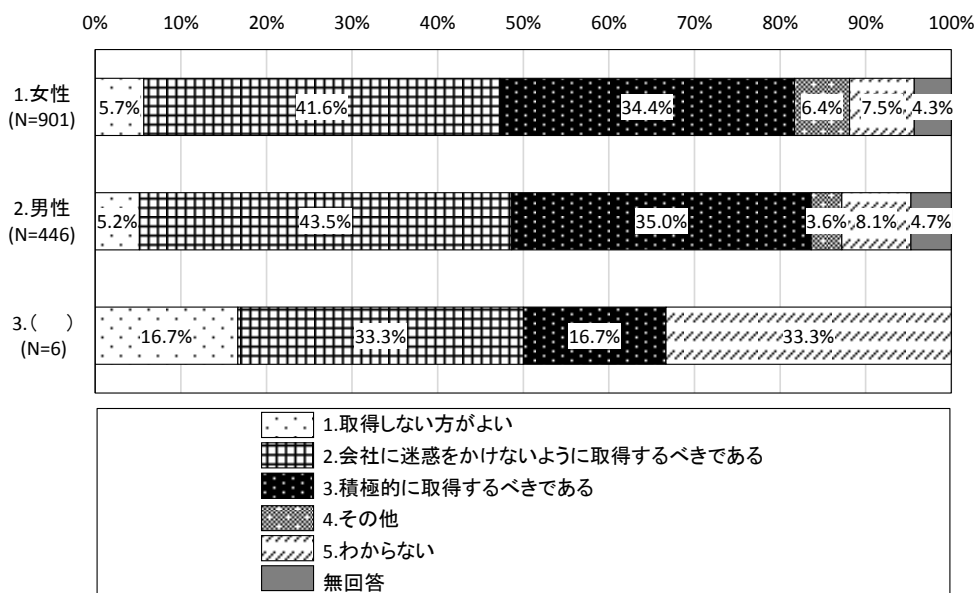
「4. その他」の回答

- ・育児休業同様、金銭面が保障や安定していれば。
- ・介護には期間が決まっていないので、その時の状況に応じて働きやすい時間や日を変えていけるような環境があればよいのではないかと。 等

性別

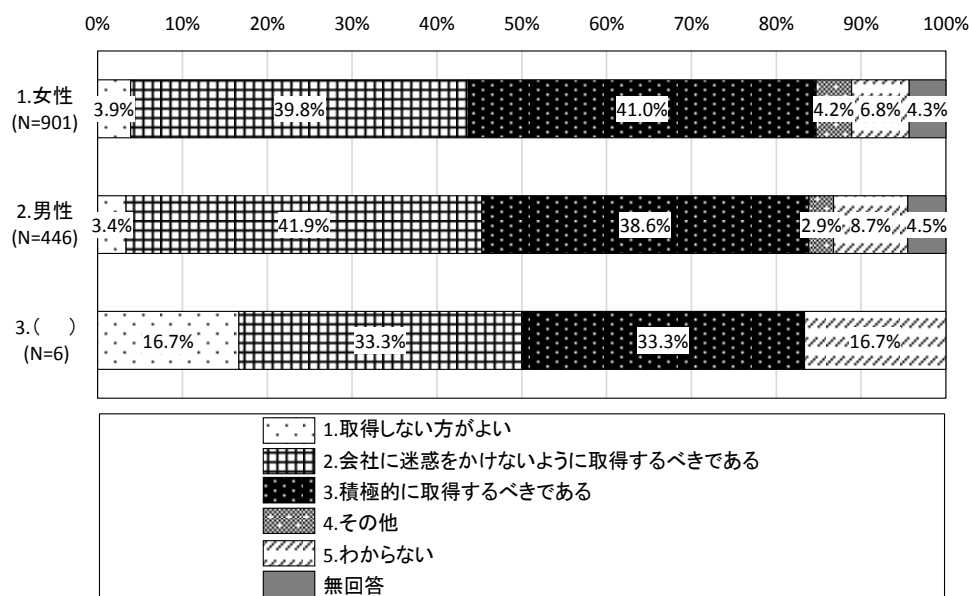
問 18-1. 育児休業（あてはまるもの1つに○）

男女ともに「2. 会社に迷惑をかけないように取得すべきである」が最も多く、次いで「3. 積極的に取得すべきである」であった。



問 18-2. 介護休業（あてはまるもの1つに○）

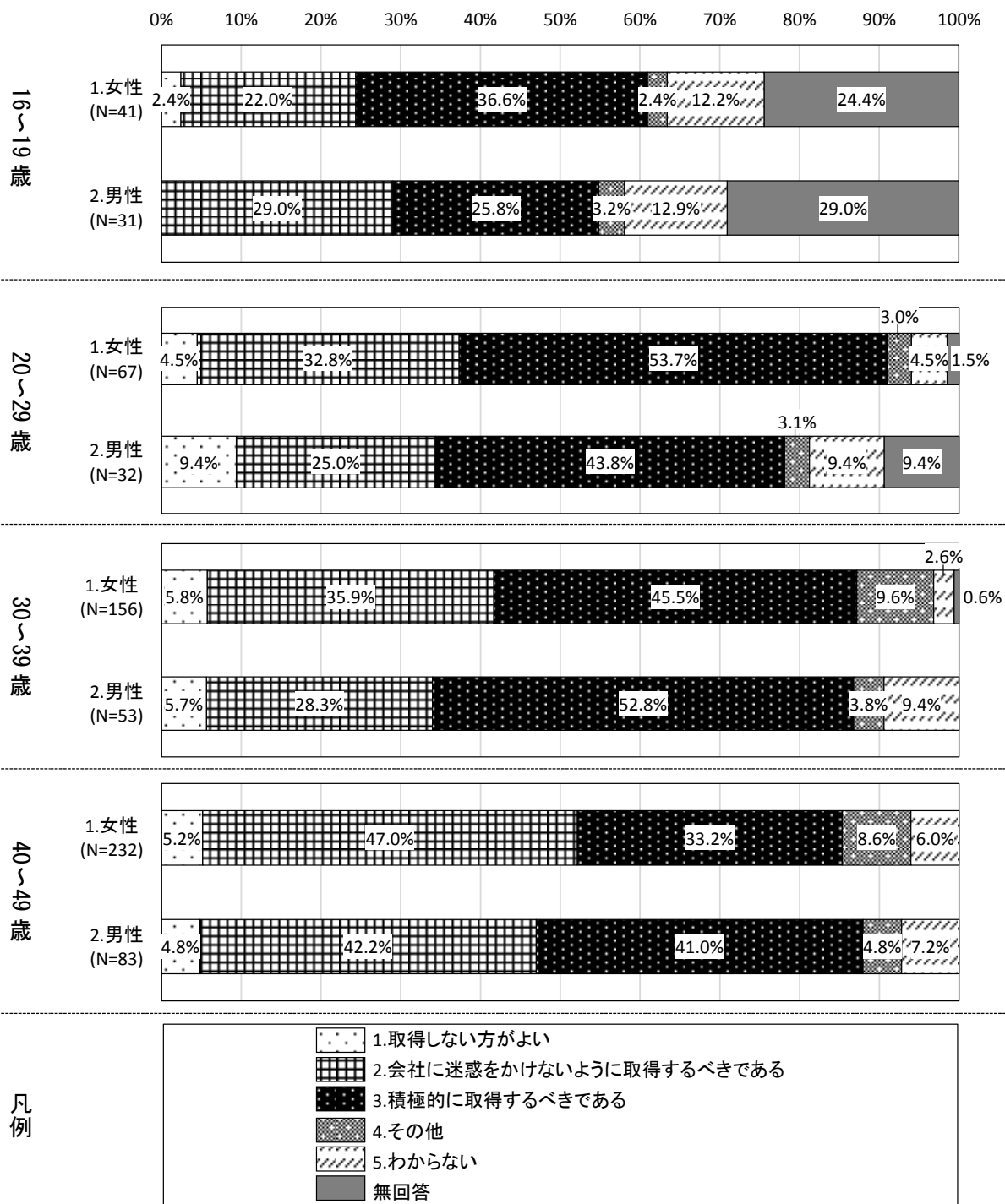
女性は「3. 積極的に取得すべきである」が最も多く、次いで「2. 会社に迷惑をかけないように取得すべきである」であった。一方、男性は、「2. 会社に迷惑をかけないように取得すべきである」が最も多く、次いで「3. 積極的に取得すべきである」であった。



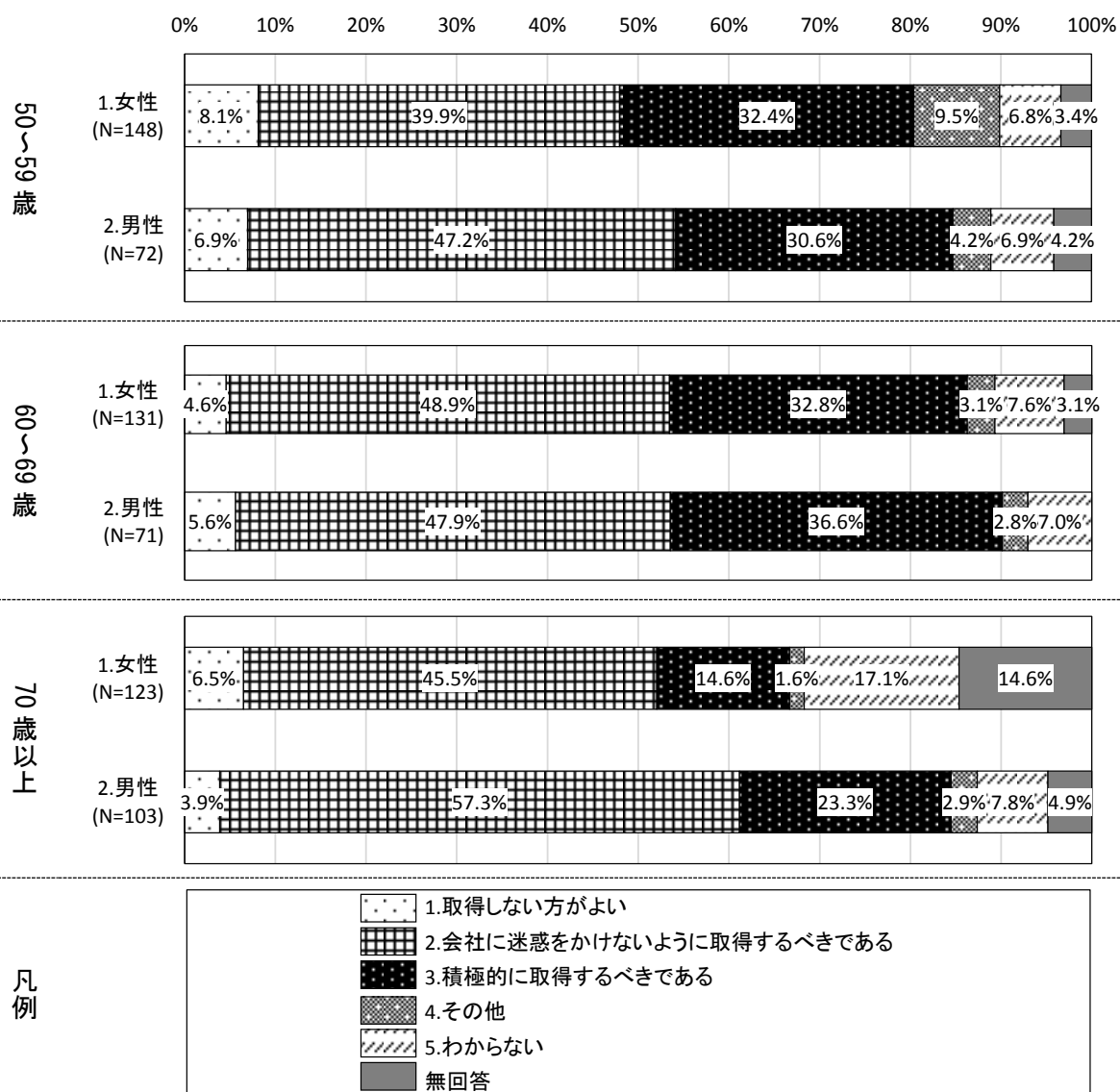
年齢別かつ性別

問 18-1. 育児休業 (あてはまるもの1つに○)

40歳以上は「2. 会社に迷惑をかけないように取得すべきである」が最も多くなっており、40歳未満は、16～19歳の男性を除いて、いずれも「3. 積極的に取得すべきである」が最も多くなっている。

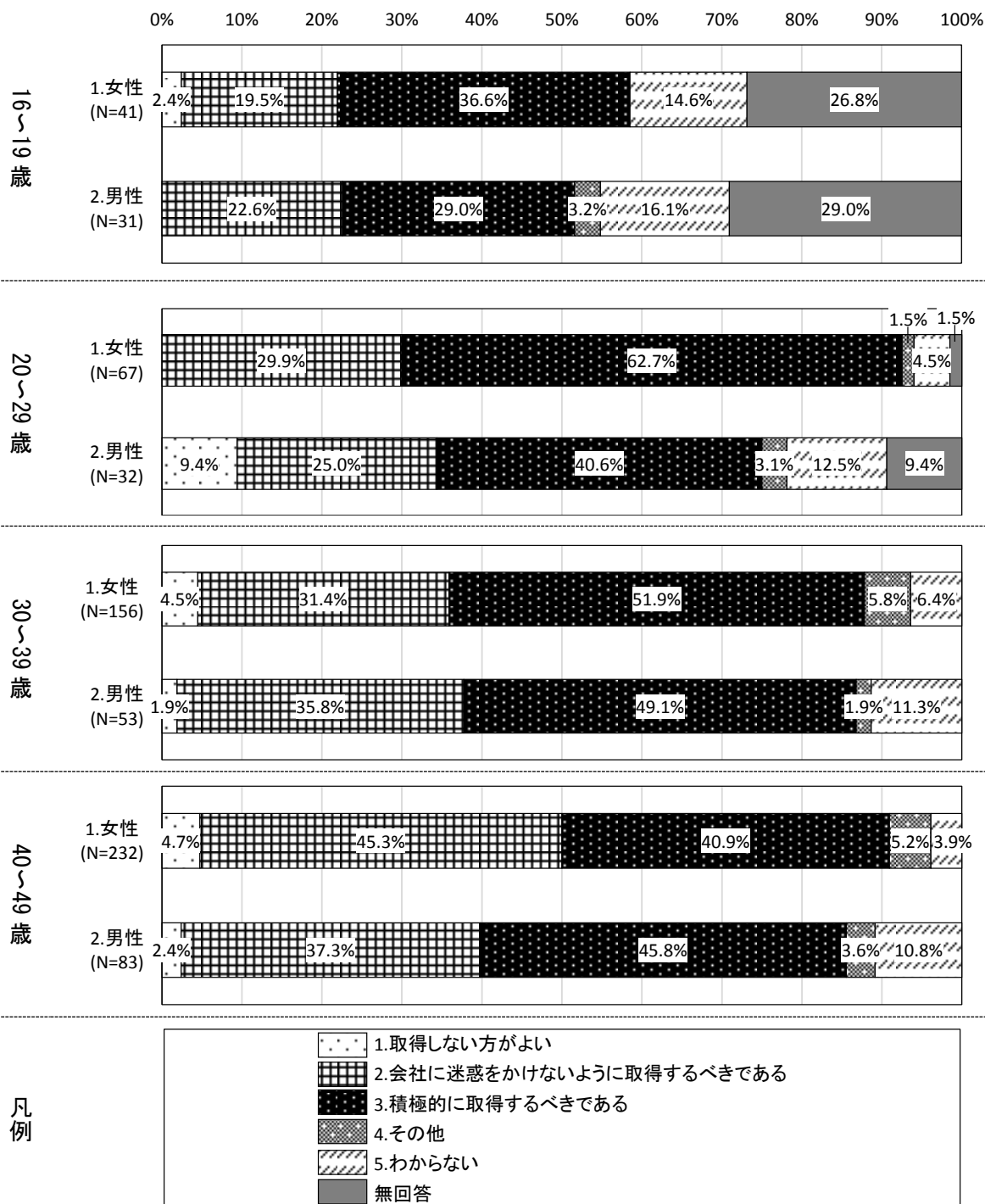


3 調査結果
仕事について

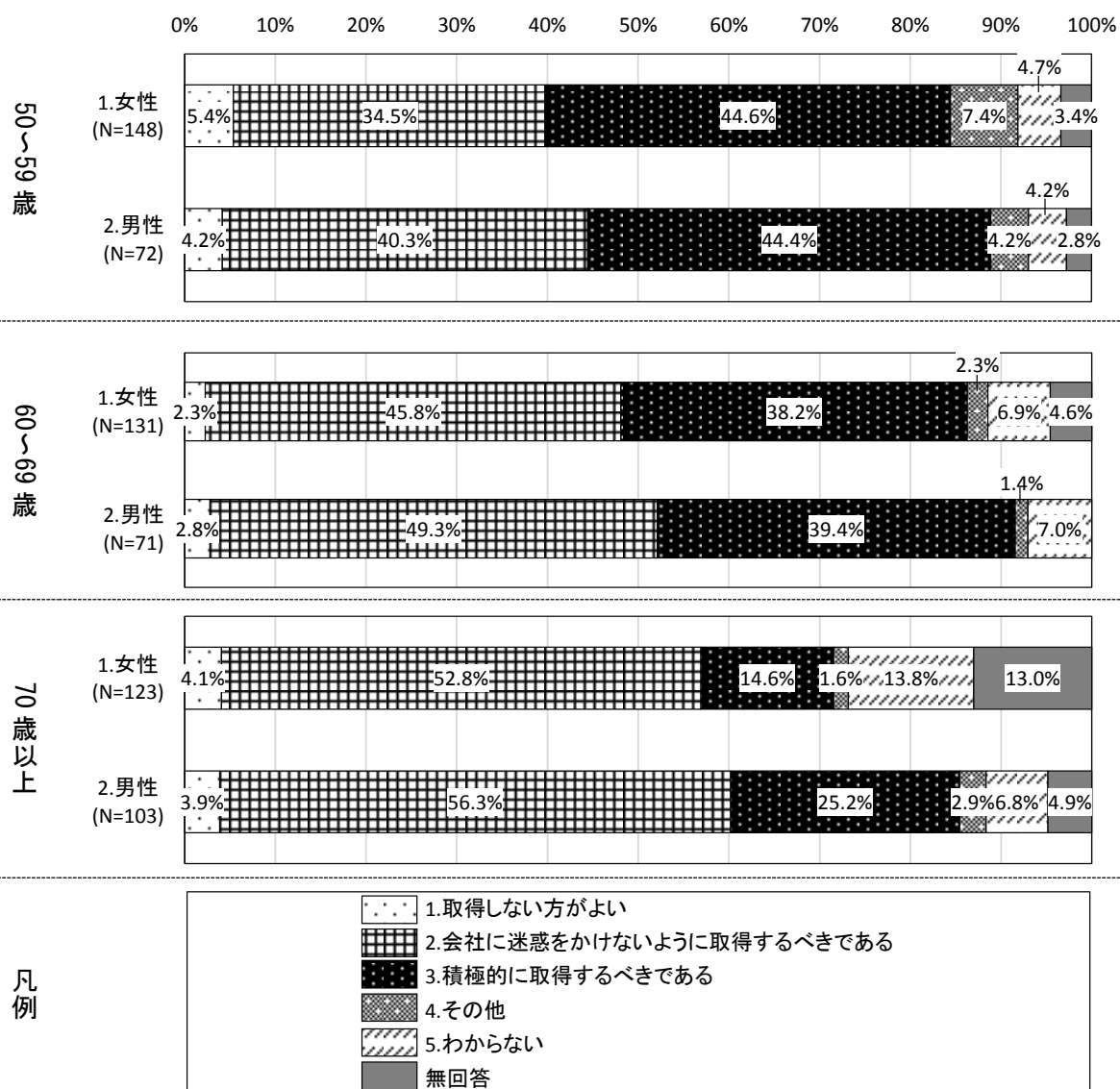


問 18-2. 介護休業 (あてはまるもの1つに○)

40～49歳の女性と60歳以上は「2. 会社に迷惑をかけないように取得すべきである」が最も多くなっており、60歳未満は、40～49歳の女性を除いて、いずれも「3. 積極的に取得すべきである」が最も多くなっている。



3 調査結果
仕事について

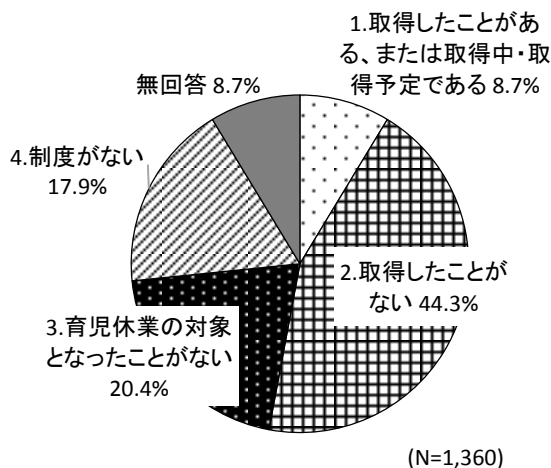


3 調査結果
仕事について

問 19 あなたは、過去も含めて育児休業を取得したことがありますか。
(あてはまるもの1つに○)

「2. 取得したことがない」が最も多く 44.3%、次いで「3. 育児休業の対象となつたことがない」が 20.4%であった。

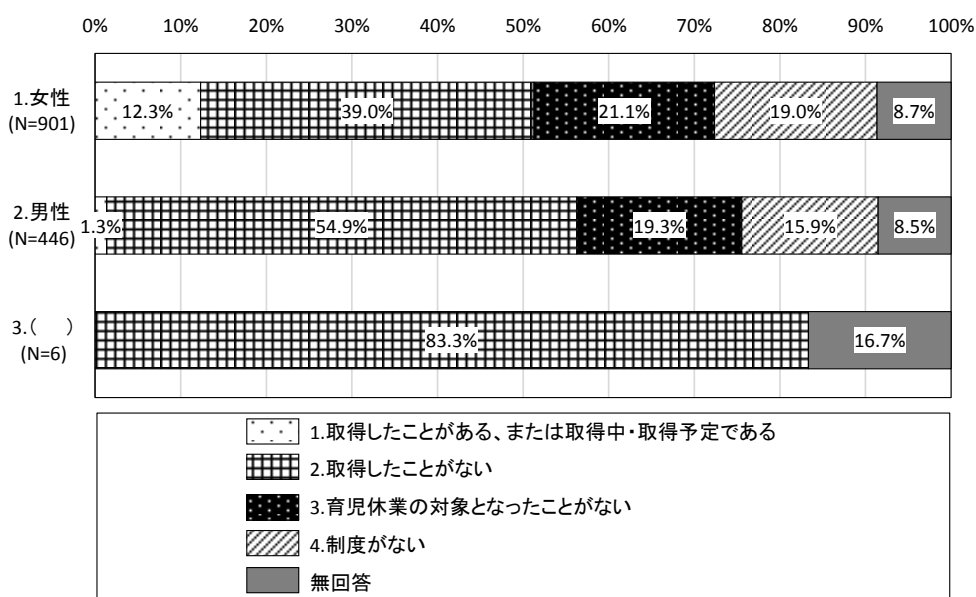
一方、「1. 取得したことがある、または取得中・取得予定である」は 8.7%であった。



性別

男女ともに「2. 取得したことがない」が最も多く、次いで「3. 育児休業の対象となつたことがない」であった。なお、「2. 取得したことがない」は、女性より男性の割合が多くなっている。

一方、「1. 取得したことがある、または取得中・取得予定である」は、女性が 12.3%、男性が 1.3%であった。

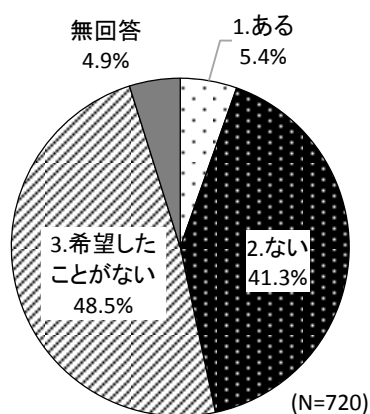


3 調査結果
仕事について

【問 19 で選択肢 1 または 2 を選択した方におたずねします】

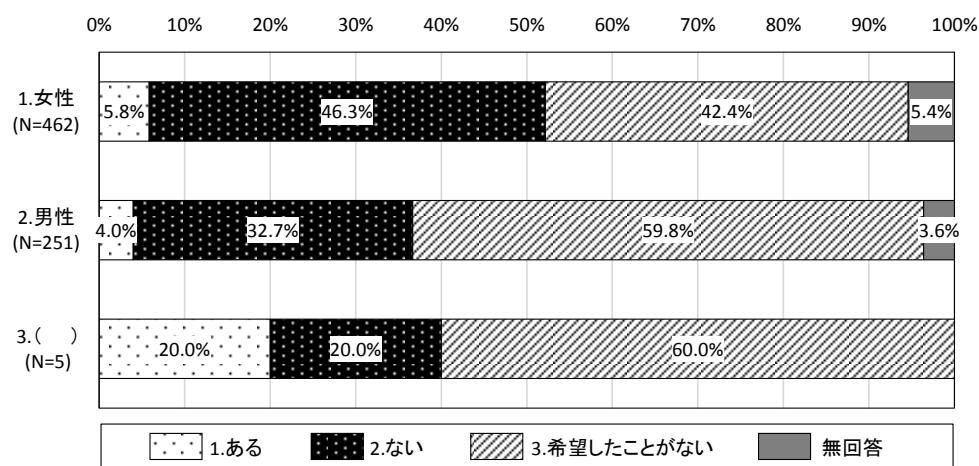
問 19-1 あなたは、育児休業を希望していたが、取得できなかったことがありますか。
(あてはまるもの 1 つに○)

「3. 希望したことがない」が最も多く 48.5%、次いで「2. ない」が 41.3%であった。
一方、「1. ある」は 5.4%であった



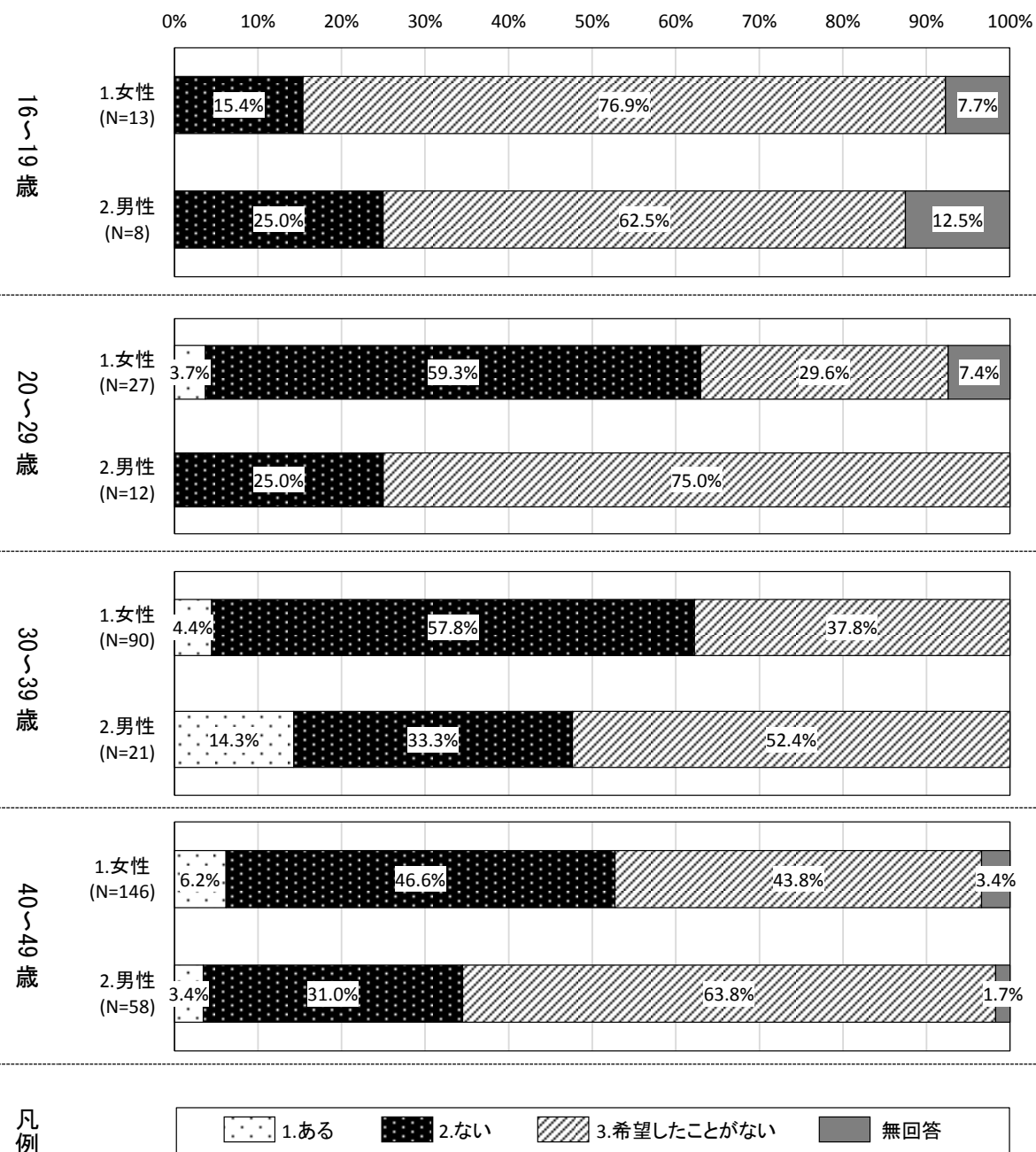
性別

女性は「2. ない」が最も多く、男性は「3. 希望したことがない」が最も多くなっている。
一方、「1. ある」は、女性が 5.8%、男性が 4.0%であった。

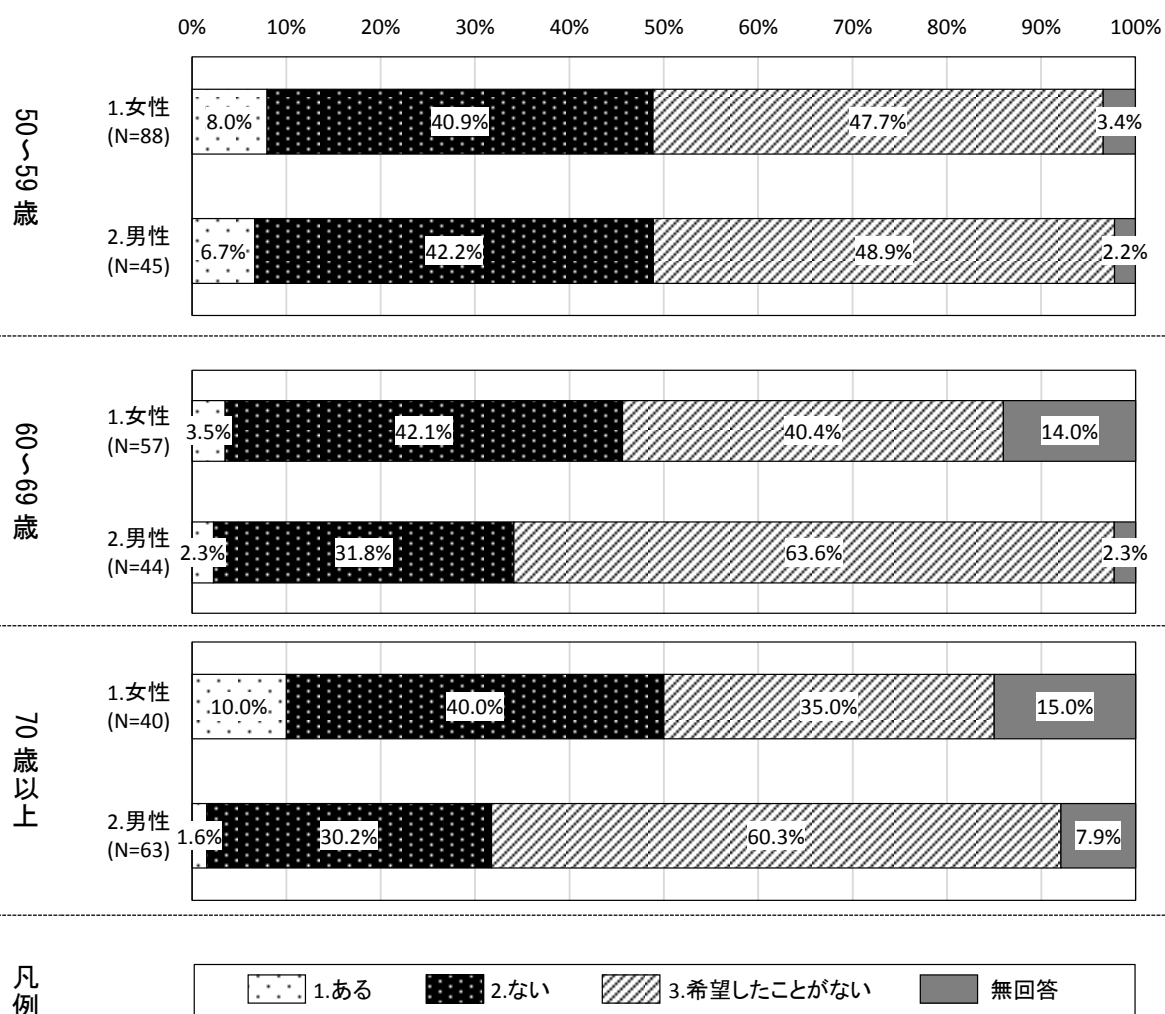


年齢別かつ性別

育児休業を希望していたが、取得できなかったことがある人は、30～39歳を除いて、いずれの年齢層も男性より女性が多くなっている。



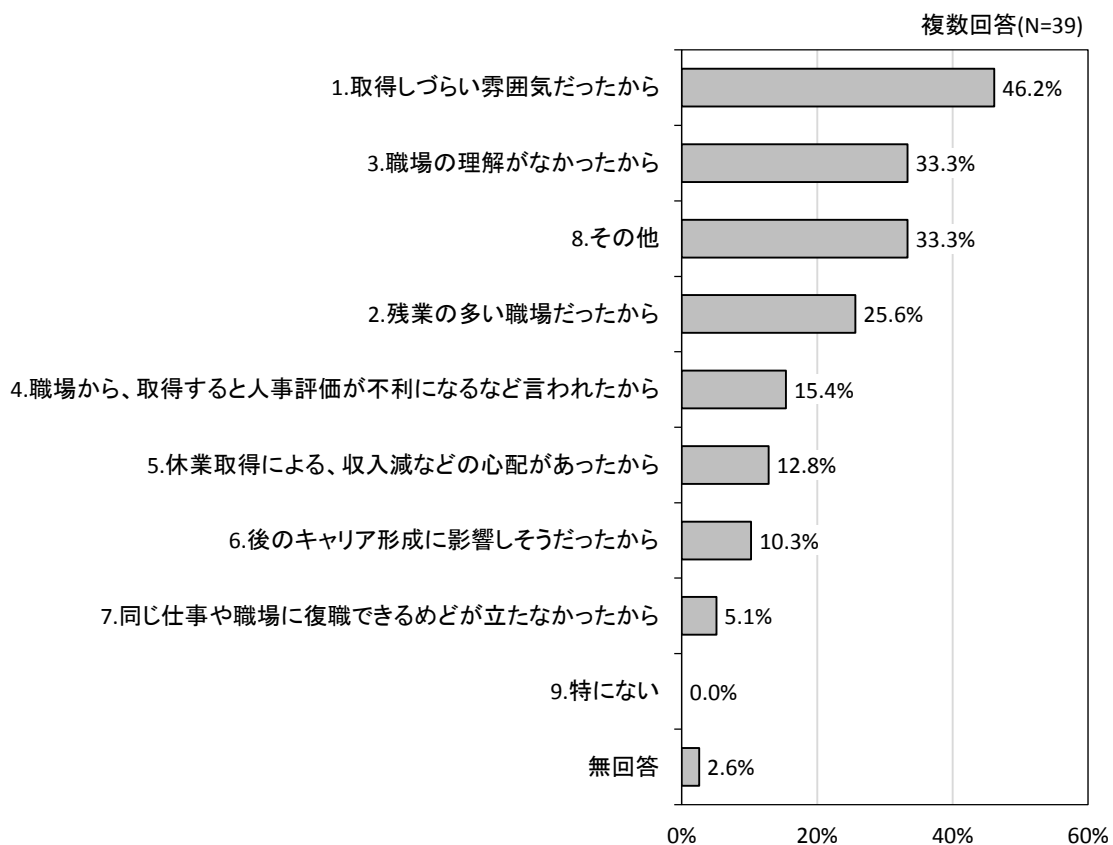
3 調査結果
仕事について



【問 19-1 で「1. ある」を選択した方におたずねします】

問 19-2 育児休業を取得できなかった理由をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

「1. 取得しづらい雰囲気だったから」が最も多く 46.2%、次いで「3. 職場の理解がなかったから」と「8. その他」が同率で 33.3%であった。

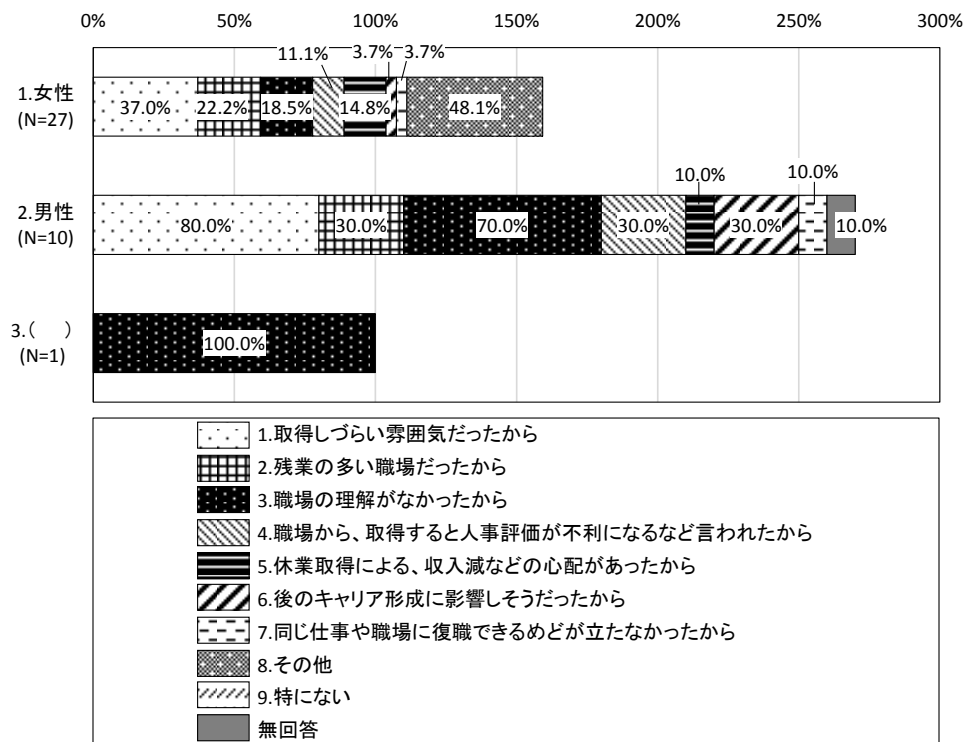


「8. その他」の回答

- ・出産後に人事より退職させられたから。
- ・妊娠した時に、そのことを店長に伝えると「残念です。」「仕事は今まで通りきっちりしてもらいます。」と言われ、結果身体がしんどくて育児休業の段階までにやめてしまった。
- ・夫の理解がない。 等

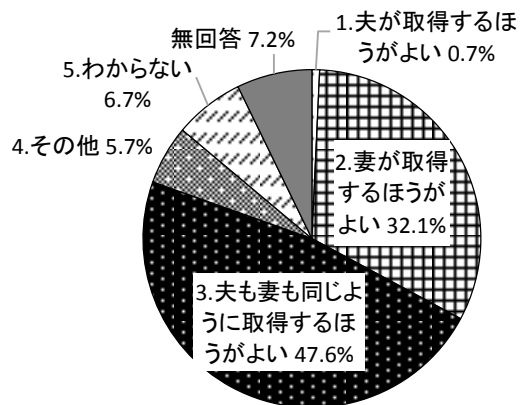
性別

「8. その他」を除いて、男女ともに「1. 取得しづらい雰囲気だったから」が最も多くなっている。男性は、「3. 職場の理解がなかったから」が7割であり、女性に比べて多くなっている。



問 20 あなたは、育児休業を取得するとしたら、どのように取得するのがよいと思いますか。
(あてはまるもの1つに○)

「3. 夫も妻も同じように取得するほうがよい」が最も多く 47.6%、次いで「2. 妻が取得するほうがよい」が 32.1%であった。



(N=1,360)

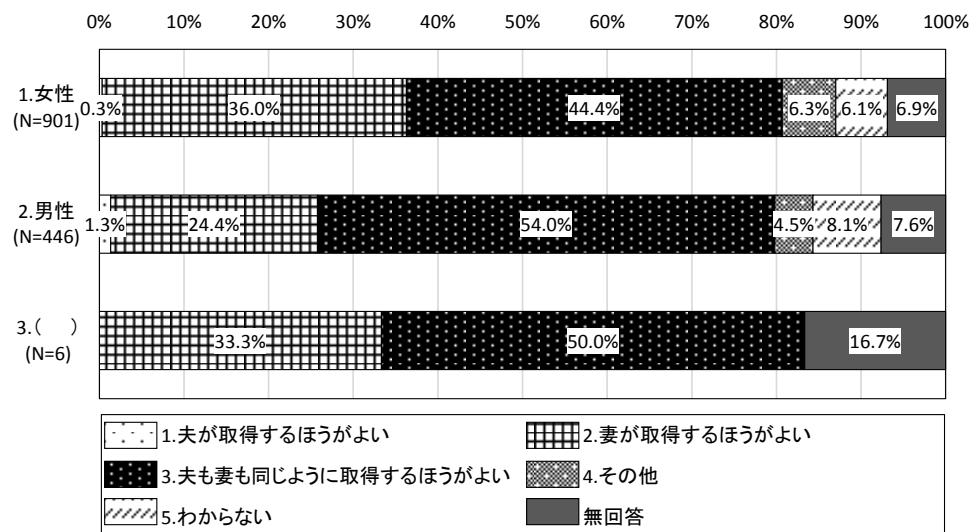
「4. その他」の回答

- ・その家族の状況に応じて、必要なように取得すればよい。
- ・共働きであれば、ずらして取得できたらよいと思う。
- ・妻が取得するが、身体的、精神的につらい時夫が支える為必要に応じ夫が取得して欲しい。 等

性別

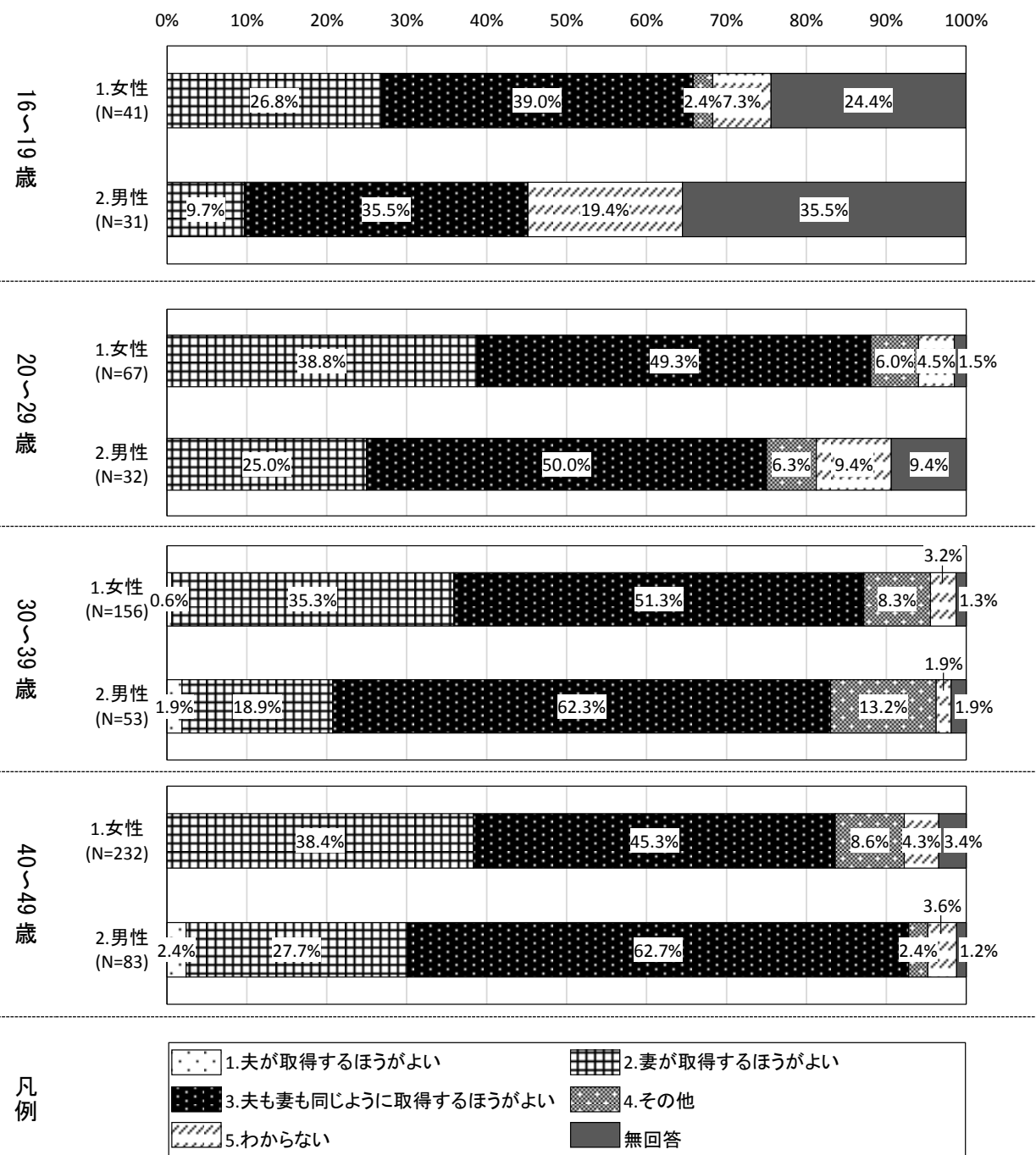
男女ともに「3. 夫も妻も同じように取得するほうがよい」が最も多く、次いで「2. 妻が取得するほうがよい」であった。

なお、「3. 夫も妻も同じように取得するほうがよい」は、女性より男性の割合が多くなっている。



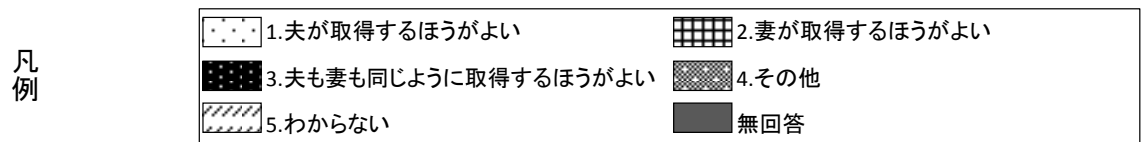
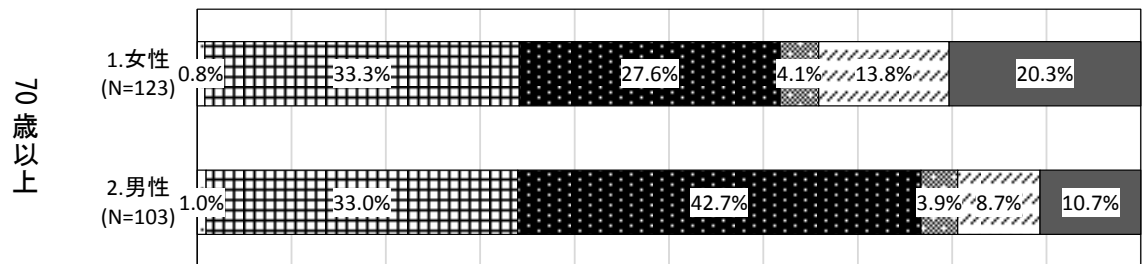
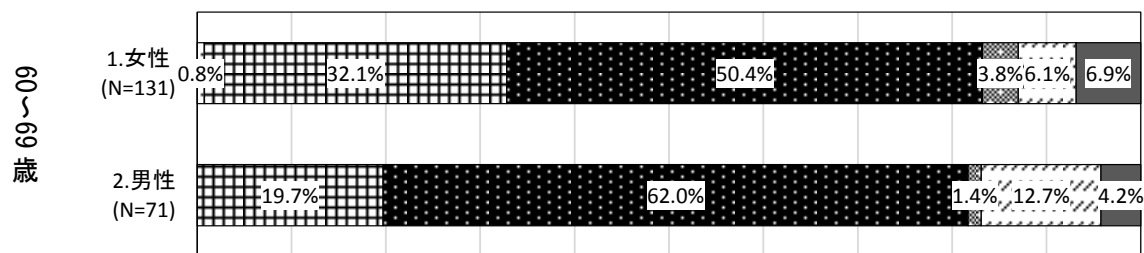
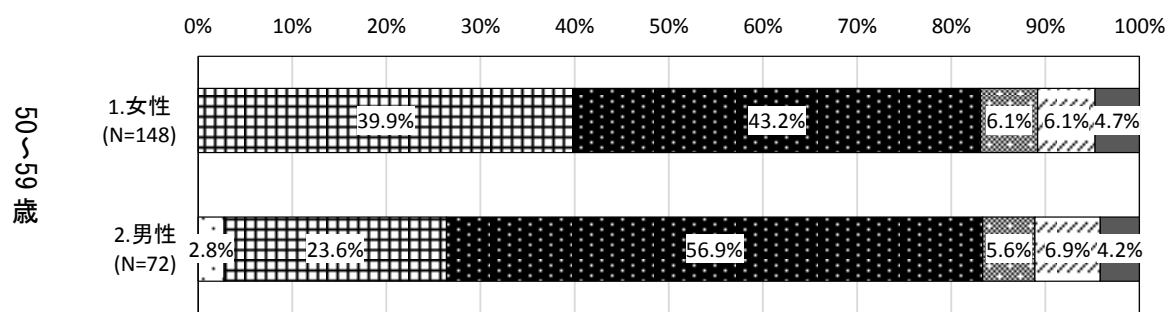
年齢別かつ性別

70歳以上の女性を除いて、いずれの年齢層も「3. 夫も妻も同じように取得するほうがよい」が最も多くなっている。また、「2. 妻が取得するほうがよい」は、いずれの年齢層も、男性より女性の割合が多くなっている。



3 調査結果

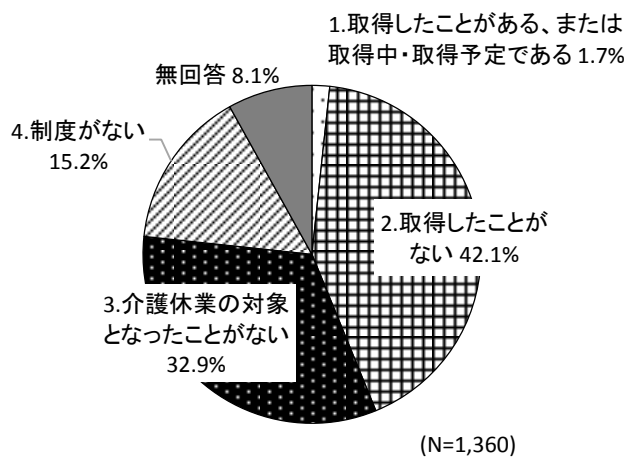
仕事について



問 21 あなたは、過去も含めて介護休業を取得したことがありますか。
(あてはまるもの1つに○)

「2. 取得したことがない」が最も多く 42.1%、次いで「3. 介護休業の対象となったことがない」が 32.9%であった。

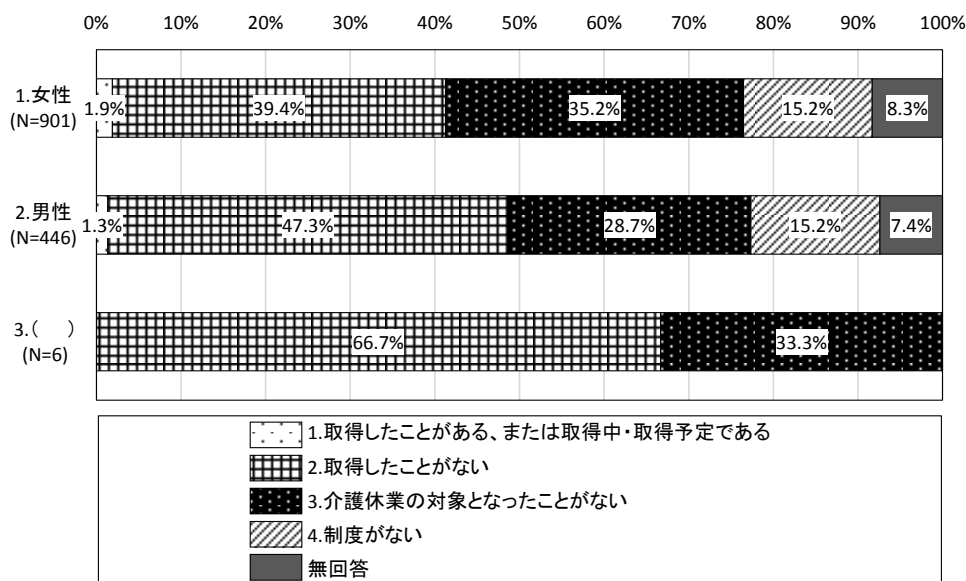
一方、「1. 取得したことがある、または取得中・取得予定である」は 1.7%であった。



性別

男女ともに「2. 取得したことがない」が最も多く、次いで「3. 介護休業の対象となったことがない」であった。なお、「2. 取得したことがない」は、女性より男性の割合が多くなっている。

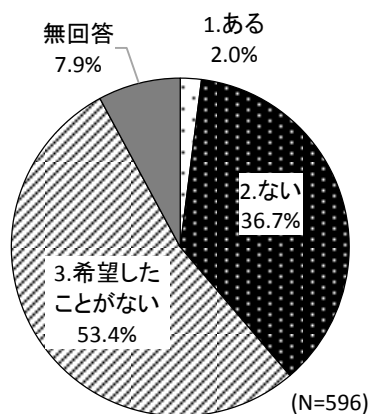
一方、「1. 取得したことがある、または取得中・取得予定である」は、女性が 1.9%、男性が 1.3%であった。



【問 21 で選択肢 1 または 2 を選択した方におたずねします】

問 21-1 あなたは、介護休業を希望していたが、取得できなかったことがありますか。
(あてはまるもの 1 つに○)

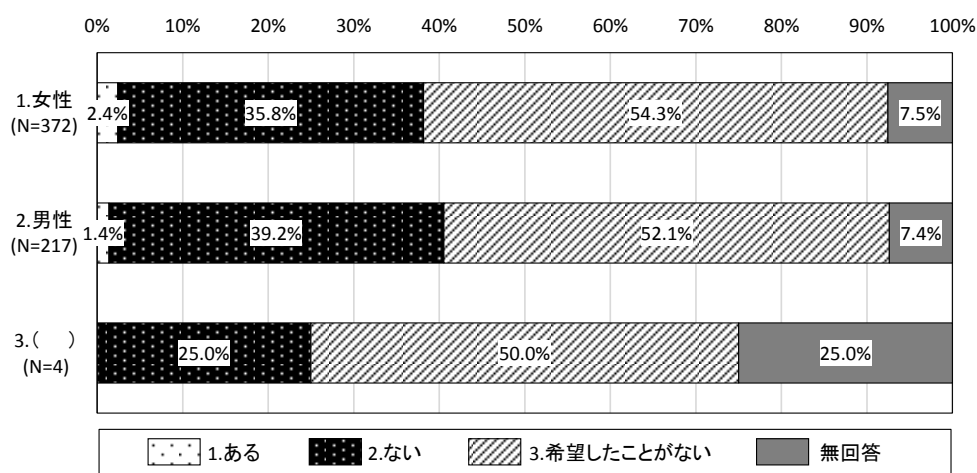
「3. 希望したことがない」が最も多く 53.4%、次いで「2. ない」が 36.7%であった。
一方、「1. ある」は 2.0%であった。



性別

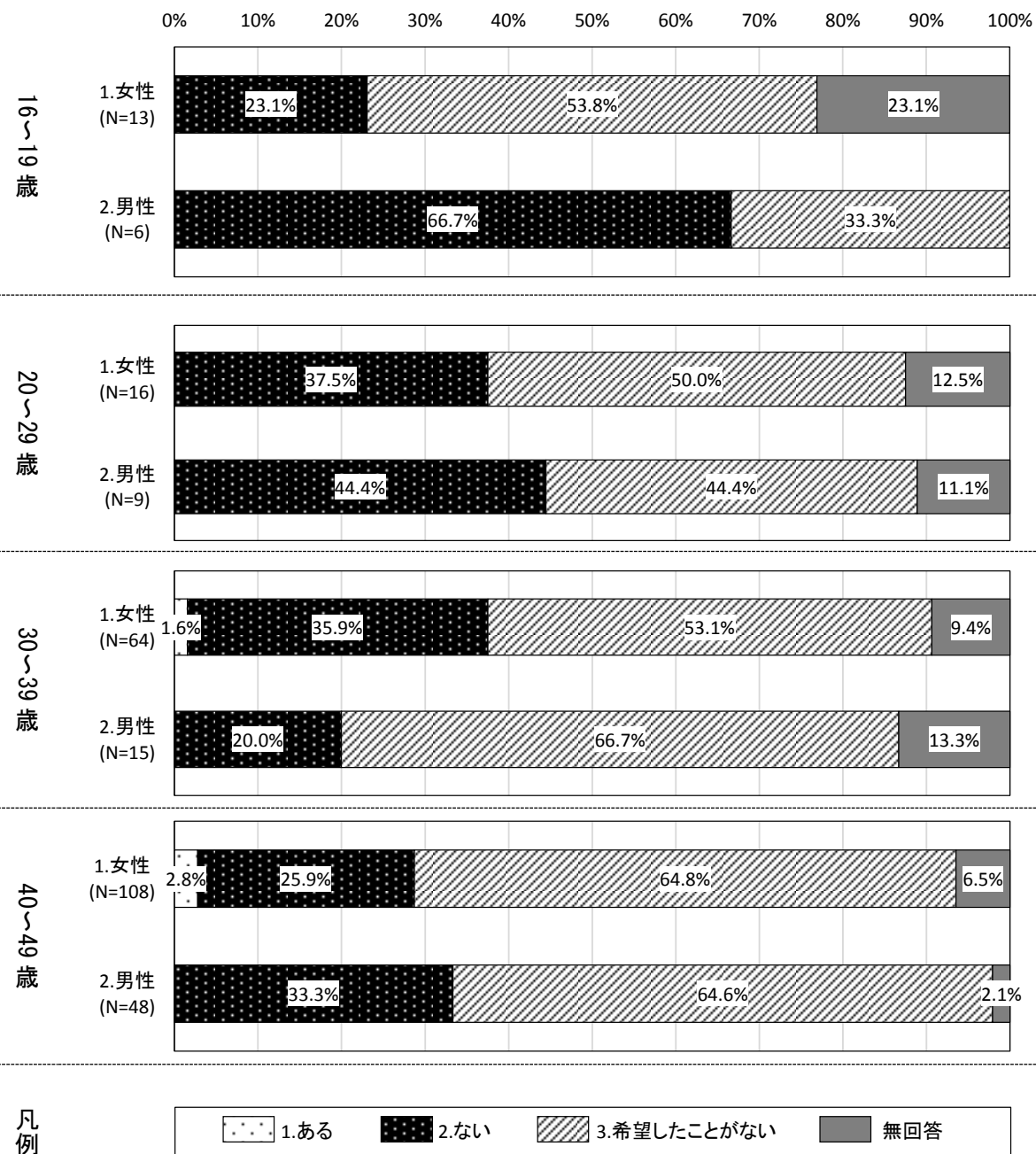
男女ともに「3. 希望したことがない」が最も多く、次いで「2. ない」であった。なお、「3. 希望したことがない」は、男性より女性の割合が多くなっている。

一方、「1. ある」は、女性が 2.4%、男性が 1.4%であった。



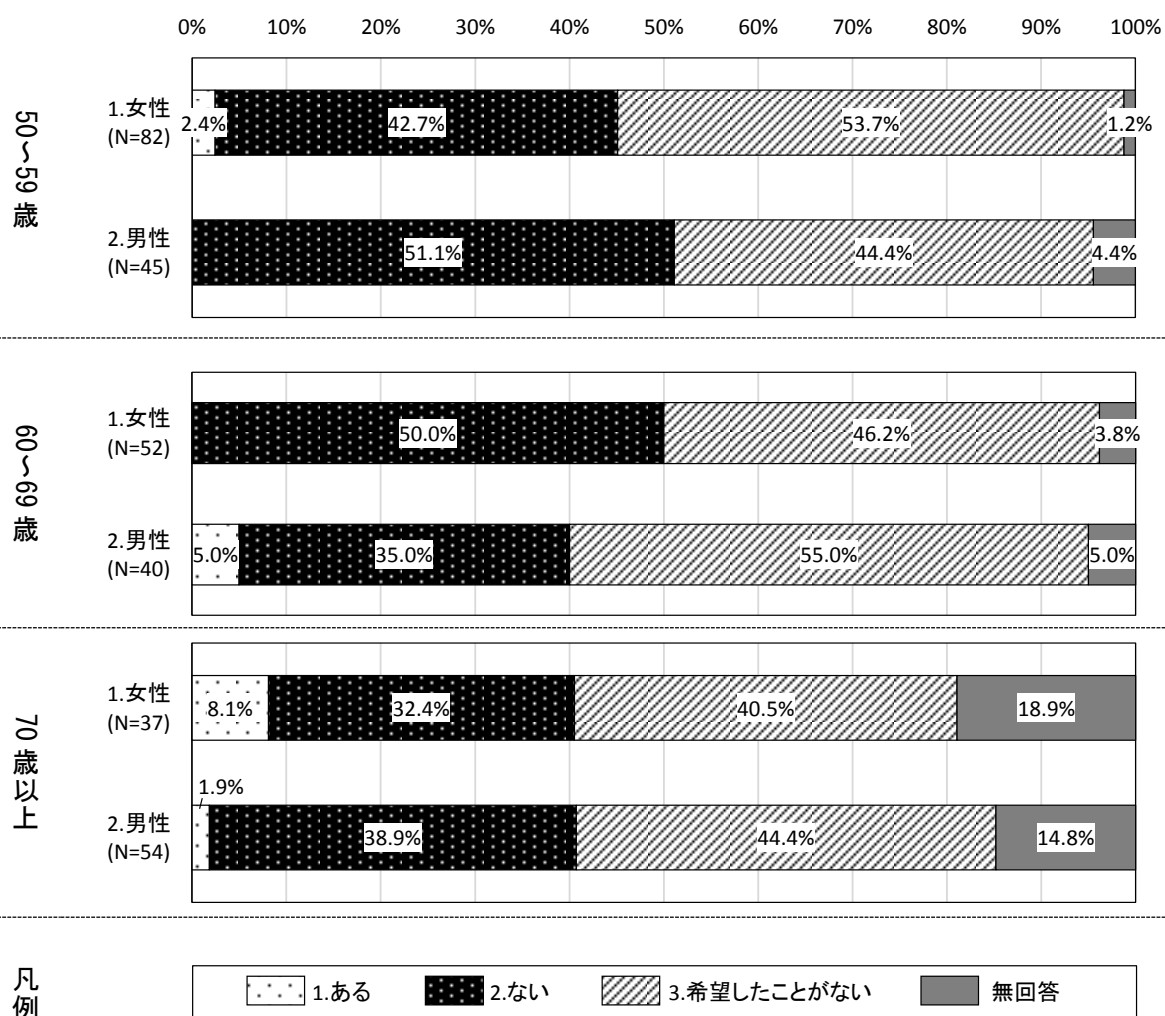
年齢別かつ性別

介護休業を希望していたが取得できなかったことがある人は、60歳代を除き、男性より女性が多くなっている。



3 調査結果

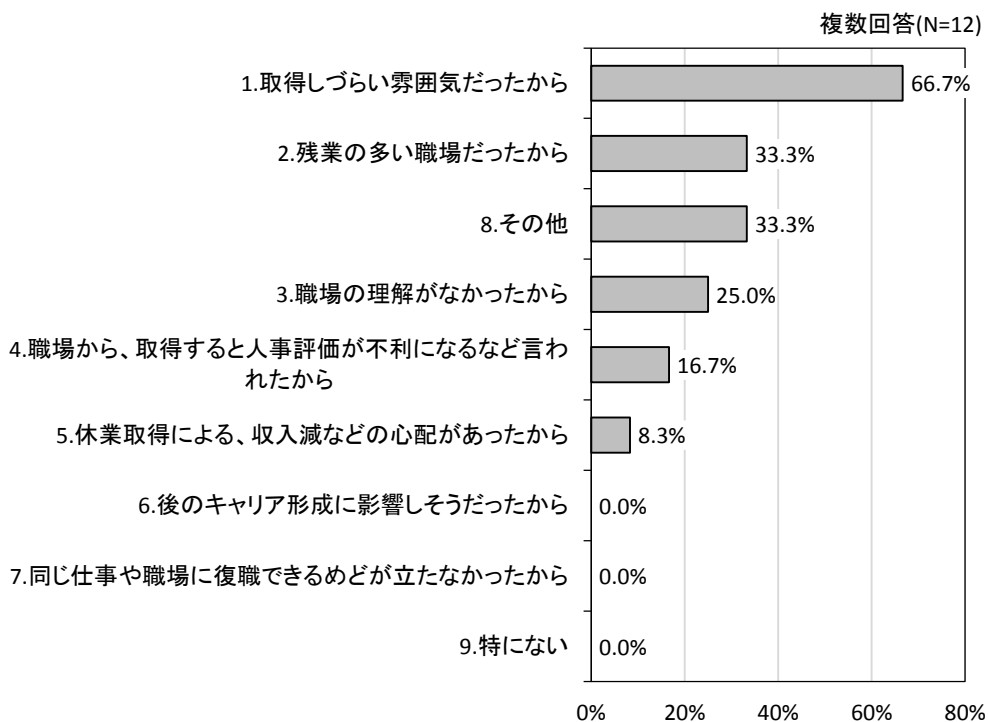
仕事について



【問 21-1 で「1. ある」を選択した方におたずねします】

問 21-2 介護休業を取得できなかった理由をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

「1. 取得しづらい雰囲気だったから」が最も多く 66.7%、次いで「2. 残業の多い職場だったから」と「8.その他」が同率で 33.3%であった。



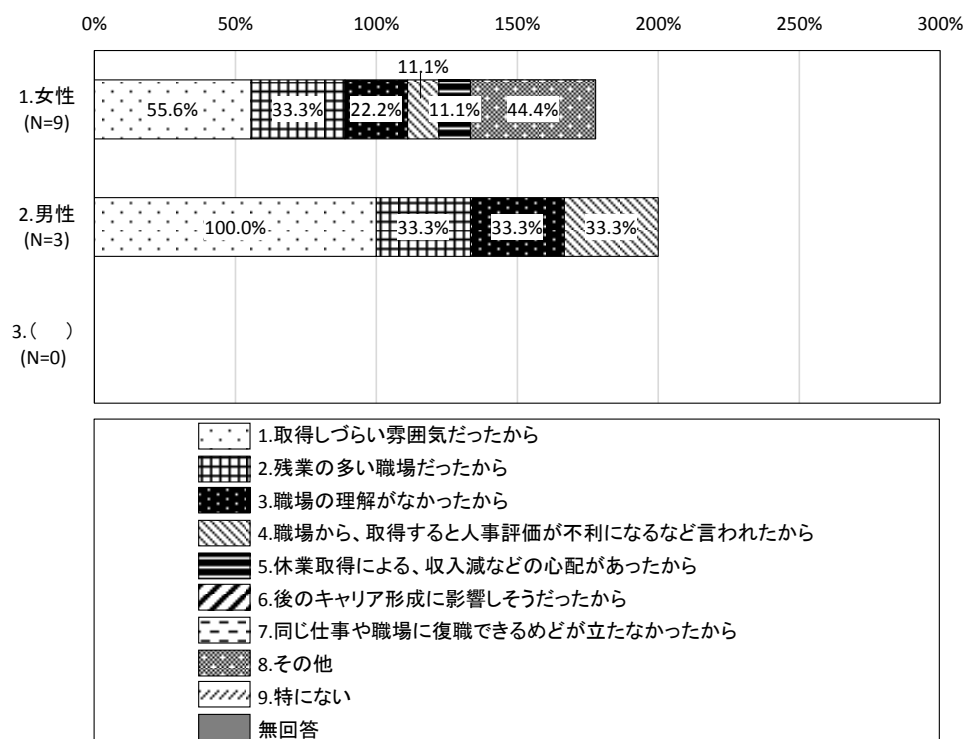
「8. その他」の回答

- ・介護対象1名について1年間しかなく3回にしか分割できないためいざという時のことを考えると残した方が、いいので使えずふつうの休みを(年休)使って介護している。
- ・いつまでの期間、介護作業が必要かわからなかったから。 等

性別

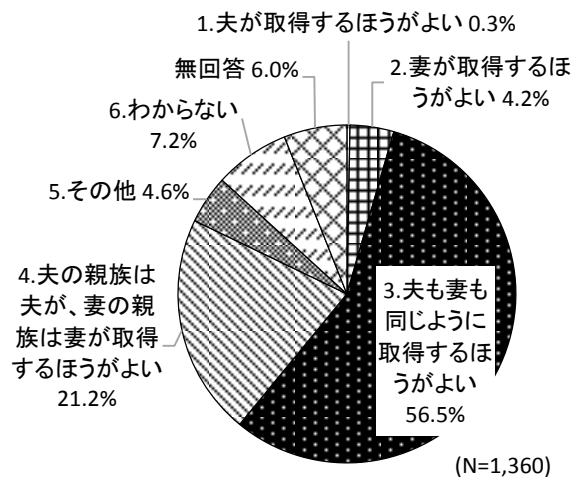
男女ともに「1. 取得しづらい雰囲気だったから」が最も多くなっている。

なお、「1. 取得しづらい雰囲気だったから」は、女性より男性の割合が多くなっている。



問 22 あなたは、介護休業を取得するとしたら、どのように取得するのがよいと思いますか。
(あてはまるもの1つに○)

「3. 夫も妻も同じように取得するほうがよい」が最も多く 56.5%、次いで「4. 夫の親族は夫が、妻の親族は妻が取得するほうがよい」が 21.2%であった。



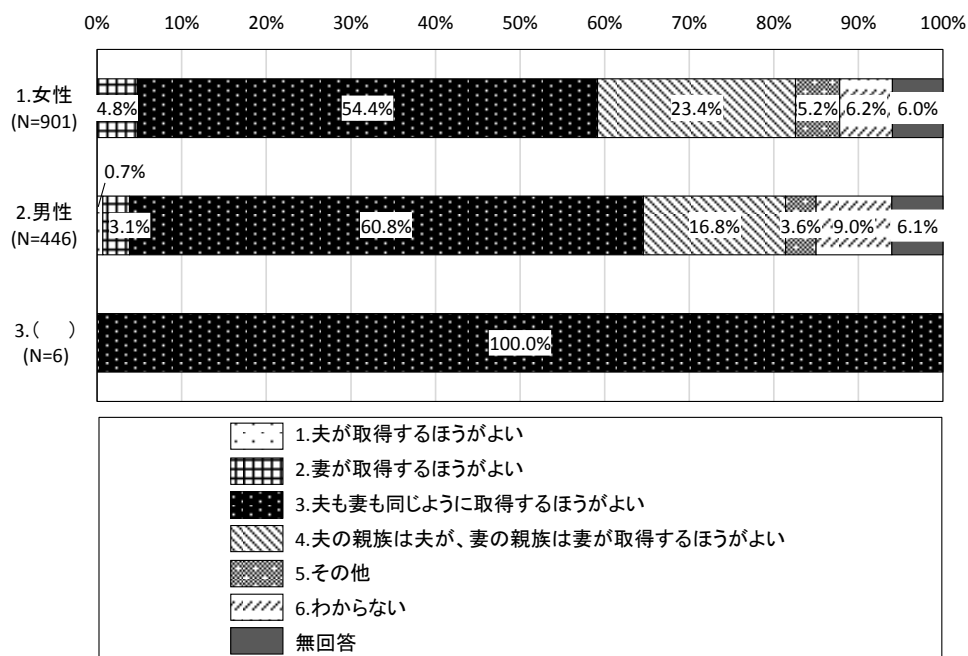
「5. その他」の回答

- ・その家庭の状況に応じて、とれる方がとればよい。
- ・介護は体力が必要なので妻だけでは無理だと思う。お互いに協力し合いながら、必要に応じて取得する方がよいと思う。
- ・介護を受ける側の希望、介護をする側の職場での役割、理解によると思う。 等

性別

男女ともに「3. 夫も妻も同じように取得するほうがよい」が最も多く、次いで「4. 夫の親族は夫が、妻の親族は妻が取得するほうがよい」であった。

なお、「3. 夫も妻も同じように取得するほうがよい」は、女性より男性の割合が多くなっている。



年齢別かつ性別

いずれも「3. 夫も妻も同じように取得するほうがよい」が最も多くなっている。

